

=====
事件のまとめ記事

命乞いの女性をメッタ刺し 「1人殺害」で死刑、残虐殺人の真相

2013.2.23



【衝撃事件の核心】 裁判員らは迷うことなく「初犯で1人殺害」の被告に極刑を選択した。岡山市内で平成23年9月、派遣社員の女性＝当時（27）＝を殺害したとして強盗殺人や強盗強姦、死体損壊・遺棄などの罪に問われた元同僚の大阪市住吉区、無職、住田紘一被告（30）の裁判員裁判。岡山地裁は14日、求刑通り死刑判決を言い渡した。性欲を満たすため犯行に及んだという被告。その身勝手さに加え、命ごいする被害者を躊躇なく殺害し、遺体をバラバラにして遺棄した残虐性、「殺人は是認される」といった公判での非常識な発言もあり、「被害者複数で死刑」という過去の判例にとられることなく判決は下された。

<< 下に続く >>

【衝撃事件の核心】

裁判員らは迷うことなく「初犯で1人殺害」の被告に極刑を選択した。岡山市内で平成23年9月、派遣社員の女性＝当時（27）＝を殺害したとして強盗殺人や強盗強姦、死体損壊・遺棄などの罪に問われた元同僚の大阪市住吉区、無職、住田紘一被告（30）の裁判員裁判。岡山地裁は14日、求刑通り死刑判決を言い渡した。性欲を満たすため犯行に及んだという被告。その身勝手さに加え、命ごいする被害者を躊躇なく殺害し、遺体をバラバラにして遺棄した残虐性、「殺人は是認される」といった公判での非常識な発言もあり、「被害者複数で死刑」という過去の判例にとられることなく判決は下された。

「好みの女性を選んだ」

今月5日から集中審理された公判では、犯行の残虐ぶりが改めてクローズアップされた。

検察側によると、住田被告は岡山市の元勤務先の倉庫に女性を誘い込み、現金2万4000円入りのバッグなどを奪い、性的暴行を加えた上、ナイフで胸などを10回以上刺して殺害。遺体は大阪市内のガレージで5つに切断し、一部はゴミ袋に詰めてゴミステーションに捨て、残りは大和大橋の上から大和川に捨てた。交際していた女性とうまくいかず性的欲求を募らせたことが犯行の動機だった。

<https://www.iza.ne.jp/smp/kiji/events/news/131008/evt13100818360046-s2.html>

住田被告は起訴事実を認め、被告人質問では「同僚からこの女性を含む好みの女性を選んだ」などと、強姦して口封じのため殺害する計画的犯行だったことも認めた。また殺害の際、女性が「誰にも言わないから助けて」と懇願したにもかかわらず、「殺害を止めようとは思わなかった。心が揺らがなかった」と供述。「被害者や遺族がかわいそうだと思わない」「殺人は是認される」とも語った。

なんとしても死刑を...

=====
結審直前に住田被告が「謝らせてください」と涙を流しながら遺族に頭を下げる場面もあったが、遺族らは真摯に反省しているとは受け取れなかった。

被害者参加制度で検察側に座っていた女性の父（60）は被告の突然の謝罪について「あれは作戦だ。裁判員的心情に訴えるため、最初から発言を覆すつもりでいたのだろう。どこが一番効果的なのかを考えていた」と逆に態度を硬化、「被告は人間の皮をかぶった悪魔。最高の刑を下してほしい」と述べた。女性の弟も証人尋問で「もし無期懲役なら、いずれ元犯罪者として社会に戻ってくるかもしれない。でも私たちは一生遺族として生きてゆく。元遺族になることなどできないのに…」と死刑を強く訴えた。

<https://www.iza.ne.jp/smp/kiji/events/news/131008/evt13100818360046-s3.html>

永山基準に照らして 裁判では事実関係は争われず、「情状」の有無、死刑が否かという点のみが焦点になった。

<< 下に続く >>

永山基準に照らして

裁判では事実関係は争われず、「情状」の有無、死刑が否かという点のみが焦点になった。

ここで参考にされたのは、最高裁が昭和58年の判決で示した「永山基準」。死刑適用にあたり、(1) 犯罪の罪質 (2) 動機 (3) 態様ことに殺害の手段方法の執拗性・残虐性 (4) 結果の重大性、ことに殺害された被害者の数 (5) 遺族の被害感情 (6) 社会的影響 (7) 犯人の年齢 (8) 前科 (9) 犯行後の情状 - の9項目を検討対象としたもの。その後の死刑判決はこれを踏まえて下され、「1人殺害」では死刑を回避する流れができた。

今回の公判でも永山基準に言及する場面が見られた。死刑を求刑した検察側は「被害者が1人であり、被告に前科がなく、犯行を自白しているとはいえ、酌量すべき事情ではない」「無期懲役受刑者は平均35年で仮釈放になっている。35年後に被告は65歳。まだ犯罪は十分に可能である」と求刑理由を説明。

一方、弁護側はこの基準に照らし「計画性があったとしても内容は稚拙で前科もない。被害者の数という点でも死刑はふさわしくない」とした。

<https://www.iza.ne.jp/smp/kiji/events/news/131008/evt13100818360046-s4.html>

残虐で自己中心的 注目の判決は求刑通り死刑だった。裁判員裁判の死刑判決は16人目で、1人殺害のケースでは3人目。被告に前科がなく、1人殺害で初犯のケースは初とみられる。

<< 下に続く >>

残虐で自己中心的

注目の判決は求刑通り死刑だった。裁判員裁判の死刑判決は16人目で、1人殺害のケースでは3人目。被告に前科がなく、1人殺害で初犯のケースは初とみられる。

「被害者が一人であっても結果は重大。性的欲求不満を解消するためという動機は極めて自己中心的で、犯行は残虐。公判途中での謝罪は被害者心情を思っているものと認められない」

=====
異例の判決となったが、森岡孝介裁判長は判決理由をこう語った。前科がない点にも「(被告は)凶悪かつ非常の犯行を計画し、次々と実行しえたことから犯罪的傾向を有する。更正可能性は高いといえない」との判断を示した。

市民感覚を反映

裁判員も閉廷後の記者会見で「残虐以外の何ものでもなく、酌量の余地はなかった」「本当に反省しているなら、初公判から素直に謝罪すべきだった」などと口々に被告を批判し、量刑理由を語った。

<https://www.iza.ne.jp/smp/kiji/events/news/131008/evt13100818360046-s5.html>

住田被告は即日控訴した。女性の父は「死刑を受け入れて本当の意味の反省をしてほしい」と語ったが、事件はプロの裁判官による2審の判断にゆだねられることになった。

<https://www.sankei.com/west/news/170713/wst1707130050-n1.html>

2017.7.13 11:50

死刑執行の住田死刑囚「自分は生きているという罪悪感があります」控訴取り下げ、遺族に謝罪

13日に死刑が執行された住田紘一死刑囚(34)は、控訴を取り下げ、一審の死刑判決が確定した後に「被害者の命を奪ってしまったのに自分は生きているという罪悪感があります」との思いを遺族側に伝えていた。

平成25年2月の岡山地裁の裁判員裁判初公判で「間違いありません」と起訴内容を認めたが、謝罪の意思はないと主張。殺害された加藤みささん=当時(27)=の父親は証人尋問で「娘と同じように苦しんでほしい。最低でも死刑にして」と訴えた。

しかし、3回目の公判で住田死刑囚は「謝らせてください」と涙を流して頭を下げ、「加藤さんと遺族のために死刑になるしかないと思っていた」と、意図的に裁判員の心証を悪くしようとしていたと説明。だが、裁判員らは死刑判決後の記者会見で「残虐で酌量の余地はない」「心に響く言葉がなかった」と語っていた。

住田死刑囚は25年3月28日、控訴取り下げの申立書を岡山刑務所長に提出。翌29日に接見した弁護人を通じ、遺族側に「今後はみささんに対して思いをはせ、自分にできる供養をしていきたいと思います」と伝えた。

これに対し父親は「やっと反省する気になったのかと思う」と語る一方、「娘は帰ってこないという苦しい思いがある」と心境を明かしていた。

=====

以下に事件の詳しい内容:

“2011/10/07 大阪読売新聞 朝刊 39ページ 649文字

岡山県警が6日、遺体が発見されないまま被疑者を逮捕した殺人事件。岡山市東区瀬戸町、派遣会社員加藤みささん(27)と、逮捕された元同僚の大阪市住吉区沢之町、無職住田紘一容疑者(29)について、県警幹部は記者会見で「交際の事実はない」と話した。動機は何か、そして、遺体はどこに。県警は捜査本部を置き、50人態勢で追及する。(本文記事1面)

2人が勤めていたIT関連会社は、印刷会社や工場が立ち並ぶ岡山市北区の市街地の一角にある。住田容疑者は、事件10日前の9月20日付でこの会社を退社した。3階建ての会社の建物は7日午前0時過ぎごろから、20〜30歳代くらいの派遣社員数人が帰宅したが、いずれも事件については知らず、「そんなことがあったんですか」と驚いていた。

会社近くに住む50歳代男性は「そんな事件など起こりそうにない場所。信じられない」と話していた。同区の岡山西署では午後11時過ぎから、小田一泰刑事部長ら5人が記者会見。会見場にいた記者約30人からは、動機や、2人が勤務していた会社での接点などに、質問が相次いだ。幹部らは明らかにしなかった。

これまでの調べに対し、住田容疑者は、会社の駐車場で殺害したことは認めているという。ただ、遺体をどこに運んだのかなど、詳しいことは供述しておらず、幹部は「加藤さんの所持品も、まだ見つかっていない。一刻も早い遺体発見に努める」と話した。

加藤さんの親族は「大切な娘を突然の事件で失い、現実のものとしていまだに受け入れられずにいます」とコメントした。

“2011/10/07 大阪読売新聞 夕刊 13ページ 597文字

岡山市内で元同僚の女性派遣社員を刺殺したとして岡山県警に殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区沢之町、無職住田紘一容疑者(29)が、住んでいた岡山市内のアパートを引き払った直後に犯行に及んでいたことがわかった。翌日には大阪の実家へ帰っており、県警は計画的な犯行だった可能性があるとみて追及している。

捜査関係者などによると、住田容疑者と、殺害された派遣社員加藤みささん(27)(岡山市東区瀬戸町瀬戸)は同じ岡山市北区のIT関連会社に勤務していた。正社員だった住田容疑者は8月20日、「キャリアを向上させたい」などの理由で辞表を提出した。

住田容疑者は9月30日、会社に社員証を返却してアパートを引き払った後、会社の駐車場にとめた自分の車の中で加藤さんを殺害したとされる。近くのビルのトイレからは加藤さんの血痕が見つかり、県警は住田容疑者が犯行後、洗い流したとみている。

2人が勤務していた会社の説明では、住田容疑者は総務、加藤さんは庶務を担当。別のフロアで勤務し、書類のやりとりをする程度の関係だったという。

大阪市住吉区にある住田容疑者の実家周辺の人によると、住田容疑者は両親と妹の4人家族という。大学卒業後、アパレルメーカーに勤務し、3年前に岡山市の会社に転職していた。近くの男性は「4、5日前、自宅前で会うと、『またよろしくお願いします』とあいさつし、変わった様子はなかった」と話した。

27歳女性刺殺容疑逮捕 大阪の元同僚男が自供 岡山県警

“2011/10/07 朝日新聞 朝刊 37ページ 490文字

派遣社員の女性を刃物で殺したとして、岡山県警は6日、大阪市住吉区沢之町、無職住田紘一容疑者(29)を殺人容疑で逮捕し、発表した。容疑を認めているという。

県警によると、住田容疑者は9月30日午後6時半ごろ、岡山市北区高柳東町のIT関連会社の駐車場で、派遣社員加藤みささん(27)＝同市東区瀬戸町瀬戸＝を、自分の乗用車の中で刃物で殺した疑いがある。遺体と凶器の刃物は見つからないという。

加藤さんの家族が10月1日、行方不明届を赤磐署に提出。駐車場付近の監視カメラに2人の姿が写っていたといい、6日、大阪市内の実家にいた住田容疑者を大阪府警住吉署に任意同行。犯行を自供したため逮捕した。遺体は捨てたと供述しているという。実家近くにあった車の中からは血痕が見つかったという。現場付近の会社の壁などに複数の血痕が見つかり、県警がDNA鑑定し、加藤さんのものと一致した。

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

=====
県警によると、IT関連会社は加藤さんの派遣先で、通信教育大手ベネッセコーポレーションの系列会社。住田容疑者は2008年3月からその会社の正社員だったが、先月下旬、依願退職したという。2人は面識があったという。

殺人：元同僚の女性殺害 容疑で男逮捕「遺体捨てた」 - - 岡山

“2011/10/07 朝日新聞 夕刊 15ページ 383文字

岡山市のIT関連会社に派遣された女性社員が殺された事件で、逮捕された無職、住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が事件の10日前、「もっとキャリアを積みたい」と言って同社を依願退職していたことが、同社への取材で分かった。2人は元同僚だった。岡山県警によると、住田容疑者は9月30日午後6時半ごろ、岡山市北区のIT関連会社の駐車場で、派遣社員の加藤みささん(27) = 同市東区 = を、自分の乗用車内で刃物で殺した疑いがある。「遺体は捨てた」と供述しているという。会社側が7日、報道陣に明かしたところによると、住田容疑者は同社で事務系の仕事に就いていたが、9月20日に依願退職。「実家のある大阪でがんばりたい」と話していたという。捜査関係者によると、住田容疑者は遺体を地理に不案内な場所に捨てたといひ、複数箇所を供述。岡山県警は7日朝から大阪方面などを捜索している。

27歳女性を殺害容疑 大阪の29歳逮捕 岡山 【大阪】

“2011/10/07 毎日新聞 大阪朝刊 27ページ 446文字

岡山県警は6日、元同僚の女性を殺害したとして、大阪市住吉区沢之町の無職、住田紘一容疑者(29)を殺人容疑で逮捕した。被害者は岡山市東区瀬戸町瀬戸の派遣社員、加藤みささん(27)。県警によると、住田容疑者は「遺体を捨てた」と供述したが、遺体は見つかっていないという。県警は岡山西署に捜査本部を設置した。逮捕容疑は、9月30日午後6時半ごろ、岡山市北区のIT関連会社の駐車場に止めた住田容疑者の乗用車内で、加藤さんを刃物で殺害したとされる。住田容疑者は、加藤さんが派遣されていたこの会社の社員だったが、先月20日に退社していたという。加藤さんの家族が1日、「娘が帰宅しない」と県警に届け出た。県警は会社の防犯カメラと一緒に歩く2人が映っていたことなどから住田容疑者を割り出し、6日、大阪府警住吉署に任意同行して取り調べたところ、殺害を自供したという。現場の建物の壁に血痕があり、DNA型鑑定で加藤さんの血液と確認された。遺体や凶器の刃物は見つからないという。【五十嵐朋子、原田悠自】

岡山女性殺害 犯行直前引越す 翌日帰阪、計画的か 逮捕の容疑者

“2011/10/08 大阪読売新聞 朝刊 31ページ 895文字

岡山市内のIT関連企業に勤める派遣社員加藤みささん(27)(岡山市東区瀬戸町瀬戸)が、元同僚の無職住田紘一容疑者(29)(大阪市住吉区沢之町)に、会社の駐車場で刺殺されたとされる事件。同社では、事件の加害者と被害者が同じ職場にいたという最悪の展開を受け、7日、幹部社員が沈痛な面持ちで報道陣に対応。加藤さんを知る人たちは、本人や家族の無念さを思い、突然の死を悼んだ。岡山市北区高柳東町のIT関連企業前では、午前9時40分頃、同社の総務部長が約20人の新聞、テレビの記者らを前に、「被害に遭われた派遣社員、家族の皆様のことを考え、心が痛く、苦しい気持ちでいっぱい」と苦渋の色を浮かべた。一方、住田容疑者が同社で働いていたことについて問われると、「捜査の状況、結果を待つてコメントをさせていただく場があれば」と述べるにとどまった。

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>
=====

2人の関係については、「仕事上のやり取りがあった程度。会話はしたことがあると思う」とし、トラブルの可能性については「全く分からない」と答えた。

ただ、質問が、同社の別棟で見つかった血痕の場所や事件前後の目撃者の有無に及ぶと、「捜査上のことなので、コメントを控える」と繰り返すのみだった。

別の同社幹部は7日朝、読売新聞の取材に「2人の接点は職場以外に考えにくい、(関係や動機などに関しては)全く分からない」と困惑気味に話した。

◇

岡山市東区瀬戸町瀬戸にある加藤さんの自宅は、JR瀬戸駅に近い住宅地。人通りもまばらで静まりかえっていたが、路地では時折、事件について小声で話し合う住民らの姿も見られた。

小中学校時代から加藤さんを知る近くの男性(74)は「吹奏楽など音楽をされ、勉強もとてもでき、自慢の娘さんだったでしょうに」と目を伏せた。

小中学校時代に同級生だった女性の母親(54)は「地元就職する子が少ない中、加藤さんは自宅から職場に通っていたので、ご両親も安心されていたはず。それなのに、こんな事になるなんて。お気の毒です」と声を震わせた。

写真 = 事件を受けて記者らに対応するIT関連企業の総務部長ら(7日午前9時39分、岡山市北区で)

元同僚女性刺殺 「ガレージで遺体切断」容疑者供述 大和川などに遺棄

“2011/10/08 大阪読売新聞 朝刊 37ページ 1078文字

同僚だった女性を刺殺したとして岡山県警に殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区沢之町、無職住田紘一容疑者(29)が「自宅近くに借りたガレージ内で遺体を切断し、大阪府内の数か所に遺棄した。大和川大橋から川へ投げたり、袋に入れてゴミ収集場所に置いたりした」と供述していることがわかった。2人は勤務していたIT関連会社内ではあまり接点がなかったといい、県警は動機とともに死体損壊・遺棄容疑でも追及。8日以降、大阪市住之江区の同橋周辺の大和川などを捜索する。

県警は7日、供述に基づき、このシャッター付きのガレージを捜索。殺害された派遣社員加藤みささん(27)(岡山市東区瀬戸町瀬戸)が着ていたとみられるワンピースや、ナイフ、懐中電灯、モップなどを押収した。ワンピースには血痕がついていた。ガレージ内にはマットがあり、県警は、この上で遺体を切断したとみている。

住田容疑者は9月中旬に勤めていた岡山市内のIT関連会社を依願退職。事件当日の同30日に同市内のアパートを引き払い、翌10月1日には実家に戻って、このガレージを借りていた。

住田容疑者は自宅近くに別の駐車場も借りていて、県警は、駐車場に止めていた車の中から血痕を検出。岡山で殺害後、大阪まで遺体を車で運んだとみている。

隣のガレージを借りている男性(70)は今月3日昼、住田容疑者とみられる男がシャッターを上げ、中に入るのを目撃した。シャッターを下ろして数分間、中にいた後、黒い袋をつかんで出て行ったという。「ガレージ内は変なおいがしていた」と話している。

◆「感じのいい女性 まさか」

加藤さんは岡山県内の私立大を中退した後、派遣会社に登録。2009年5月から岡山市内のIT関連会社で働き、仕事をきっちりこなすタイプだったという。

同市内で両親と暮らしており、小中学校時代の加藤さんを知る近くの女性(54)は「この辺りでは、地元で就職する若い人が少ない中、自宅から会社に通っていて、ご両親も安心されていたでしょうに。お気の毒です」と声を落とした。

また、近くの主婦は「道で会すと、『おはようございます』と笑顔であいさつしてくれる、とても感じのいい女性だった。まさかこんな事件に巻き込まれるなんて」と言葉少なだった。

近所の人によると、加藤さんは中学、高校時代、ブラスバンド部に所属。よく一緒に登校したという女性(28)は「あまりしゃべらない、おとなしい人だった」と話した。

図 = 地図

参考事件住田紘一 (濫谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>
=====

写真 = 住田容疑者が借りていたガレージを捜索する岡山県警の捜査員ら (7 日午後 4 時 2 3 分、大阪市住吉区で) = 近藤誠撮影

事件の 10 日前、勤務先を退職 岡山・女性殺害容疑者 【大阪】

“2011/10/08 大阪読売新聞 夕刊 15 ページ 628 文字

岡山市内の派遣社員加藤みささん (27) が殺害された事件で、岡山県警は殺人容疑で逮捕した大阪市住吉区沢之町、無職住田紘一容疑者 (29) の供述に基づき、大阪府内で、加藤さんとみられる遺体の一部を発見した。住田容疑者は自宅近くに借りていたガレージ内で遺体を切断したことを認め、「大和川へ投げたり、袋に入れてゴミ収集場所に置いたりした」などと供述。県警は 8 日、大阪市住之江区の大和川大橋の下流の捜索を始めた。

捜査関係者によると、住田容疑者は 9 月 30 日午後 6 時 30 分頃、勤務先だった岡山市北区にある IT 関連会社の駐車場に止めたマイカーの中で加藤さんを刃物で刺し、殺害したとされる。

県警は 6 日夜、住田容疑者を逮捕。その後の調べに対し、遺体を切断し、大阪府内の数か所に遺棄したことを認め、これまで県警がガレージ周辺などを捜索していた。

また、IT 関連会社によると、住田容疑者と加藤さんは別々のフロアで働いており、特に接点はなかったという。これまでの県警の捜査でも、2 人に個人的なつながりはなかったとみられる。県警は 8 日、住田容疑者を殺人容疑で送検。殺害した動機や、遺体を切断するまでに至った経緯を調べている。

この日の大和川の捜索は、午前 11 時過ぎから約 20 人で開始。大和川大橋の下を中心に、ウエットスーツを着た岡山県警の捜査員らが水深がひざまでの川に入り、棒などを使って遺体を捜した。

写真 = 送検される住田容疑者 (8 日午前 8 時 20 分、岡山地検で) = 前田尚紀撮影

元同僚女性殺害 容疑で 29 歳逮捕 岡山

“2011/10/08 朝日新聞 朝刊 35 ページ 721 文字

岡山市北区の IT 関連会社に勤める派遣社員加藤みささん (27) が殺された事件。逮捕された住田紘一容疑者 (29) は加藤さんの元同僚だった。「なぜ、こんなことに……」。逮捕から一夜明けた 7 日、2 人を知る人たちはショックを隠せなかった。

近所の住民などによると、加藤さんは地元の県立高校を卒業し、岡山市内の大学に進学。2009 年 5 月から、同市北区の IT 関連会社に派遣されていた。

自宅は岡山市東区瀬戸町の閑静な住宅街。両親らと住んでいたといい、近所の主婦 (63) は「おとなしくて、かわいい感じの人。勉強もできて、礼儀正しかった」。小中学校で先輩だったという女性は「ニュースを聞いて別人であってほしいと願っていたが、本当に残念」と言葉少なだった。

加藤さんは毎朝、赤い車で通勤していたといい、「行ってきます」と元気な声で出かける姿も見かけられていた。ある女性 (76) は「道で会うと、丁寧に辞儀してあいさつしてくれた。品があって、近所でも評判のお嬢さん。ご家族の気持ちを思うとたまらない」と涙を流した。

住田容疑者と加藤さんが勤めていた IT 関連会社は 7 日、岡山市北区の本社で報道陣の取材に応じた。広報担当者は冒頭、「被害者と家族のことを思うと、大変残念で心が痛い」と沈痛な表情を見せた。

住田容疑者は「おとなしい性格。勤務態度は真面目だった」。加藤さんも仕事をきっちりこなすタイプだったという。加藤さんは事件が起きた 9 月 30 日、普段通り午後 6 時ごろに終業。会社は 2 日、岡山西署からの連絡で加藤さんの捜索願が出ていることを知った。

加藤さんの机はそのままにしてあるという。(吉村治彦、長崎緑子)

【写真説明】

事件現場となった駐車場 = 岡山市北区高柳東町

岡山・元同僚女性殺害：容疑で男逮捕 遺体切断し遺棄か - - 県警

”2011/10/08 朝日新聞 朝刊 39ページ 363文字

岡山市で派遣社員加藤みささん(27) = 同市東区 = を殺害したとして逮捕された元同僚の無職、住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区沢之町 = が「ガレージで遺体を細かく解体し、ゴミ袋に入れて捨てた」と供述していることが、捜査関係者への取材でわかった。岡山県警は死体損壊や死体遺棄容疑でも調べる。捜査関係者によると、住田容疑者は敷物の上で遺体を切断し、数日かけて遺棄した。遺体の一部については、大阪市住之江区の「大和川大橋から投げ捨てた」と供述していることから、県警は8日、川を捜索する。住田容疑者は事件があった9月30日に岡山市内の自宅を引き払い、事件直後の1日に大阪の実家に戻った。県警は7日、住田容疑者が借りていた大阪市内のガレージを捜索し、ワンピースやナイフ、モップ、懐中電灯を押収した。ワンピースには血が付いていたという。

”「別人で」願ったが 近所の住民ら沈痛 岡山・27歳女性殺害 / 岡山県

”2011/10/08 朝日新聞 夕刊 11ページ 368文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(27) = 同市東区 = が殺害された事件で、岡山県警は8日までに、大阪府内で加藤さんとみられる遺体の一部を見つけた。捜査関係者への取材でわかった。県警はDNA鑑定で身元などの確認を急いでいる。

捜査関係者によると、殺人容疑で逮捕された元同僚の無職住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = は「ガレージで遺体を解体し、ゴミ袋に入れて、川やゴミ置き場に捨てた」などと供述。このため県警は加藤さんの遺体の捜索を続けており、死体遺棄や死体損壊の容疑でも調べる。

県警は8日朝から、大阪市住之江区の大和川大橋付近でも捜索を始めた。3日間かけ、毎日20人態勢で捜索を続けるという。

県警は同日、住田容疑者を殺人容疑で岡山地検に送検した。

【写真説明】

大和川を捜索する岡山県警の警察官ら = 8日午前11時48分、大阪市住之江区

”「遺体、大阪で捨てた」 岡山の元同僚殺害、容疑者供述 【大阪】

”2011/10/08 東京読売新聞 朝刊 39ページ 246文字

岡山市内で会社の同僚だった女性を刺殺したとして、岡山県警は6日夜、大阪市住吉区沢之町、無職住田紘一容疑者(29) を殺人容疑で逮捕した。発表によると、住田容疑者は9月30日午後6時30分頃、勤務先だった岡山市のIT関連会社駐車場に止めたマイカー内で、同社で働く派遣社員加藤みささん(27) (岡山市東区) を刃物で刺し、殺害した疑い。

住田容疑者は殺害を認め、「遺体を切断し、大阪府内の数か所に遺棄した。川へ投げたり、袋に入れてゴミ収集場所に置いたりした」と供述。県警は死体遺棄容疑でも追及する。

元同僚女性刺殺 「トラブル分からない」幹部社員沈痛な面持ち = 岡山

”2011/10/08 毎日新聞 大阪朝刊 26ページ 685文字

元同僚の女性を殺害したとして殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区の無職、住田紘一容疑者(29) が「ガレージで遺体をバラバラにし、(大阪市と堺市の境の)大和川やごみ捨て場に捨てた」と供述していることが捜査関係者への取材で分かった。被害者の岡山市東区の派遣社員、加藤みささん(27) は発見されておらず、岡山県警捜査本部は8日、大和川を捜索する方針。

捜査本部は7日、同容疑者が今月1日から借りていた住吉区殿辻1のガレージなどを捜索。ガレージで血液の付着したワンピースが見つかった。加藤さんの着衣とみられるという。ガレージからはナイフ、モップ、懐中電灯も発見された。

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

=====
捜査本部によると、住田容疑者は先月30日午後6時半ごろ、勤務先だった岡山市北区のIT関連会社の駐車場に止めた同容疑者の乗用車内で、同じ会社で働く加藤さんを刃物で殺害したとされる。住田容疑者は先月20日、この会社を退職。30日午前、社員証などを返還するため同社に現れた。加藤さんは同日午後6時ごろ退社した。

住田容疑者が借りていた大阪市住吉区のカレーで隣の車庫を使う大工の男性(70)は数日前、住田容疑者とみられる男がカレーに入るのを見た。男は中側からシャッターを閉め、その後、手に黒色のビニール袋のようなものを持って出て、数分後に手ぶらで再びカレー内に戻ったという。男性は「漬け物のようなにおいがした。シャッターを内側から閉め切って、おかしいと思った」と話した。【五十嵐朋子、原田悠自、武内彩】

■写真説明 住田容疑者が借りていたカレー周辺を調べる捜査員ら = 大阪市住吉区で7日、本社ヘリから長谷川直亮撮影

元同僚女性刺殺 大阪府内で遺体一部発見 個人的接点浮かばず

“2011/10/08 毎日新聞 大阪夕刊 9ページ 443文字

岡山市の女性派遣社員殺害事件で、岡山県警捜査本部は、大阪府内で遺体の一部を発見した。同本部は8日、大阪、堺両市の境界にある大和川大橋付近の大和川で、行方が分かっていない岡山市東区の派遣社員、加藤みささん(27)の捜索を始めていた。

捜査関係者によると、先月30日に岡山市北区で加藤さんを殺害したとして、殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区の無職、住田紘一容疑者(29)が「(住吉区内の)カレーで遺体をバラバラにし、大和川やごみ捨て場に捨てた」と供述した。このため県警機動隊の潜水隊員ら約20人が、川を捜した。

2人が勤務していた岡山市北区のIT関連会社の敷地内にある建物からは加藤さんの血痕が見つかり、住田容疑者が借りていた住吉区内のカレーからは、血液が付着したワンピースが発見されている。同社によると、2人は事務を担当。トラブルなどは確認されていない。【原田悠自】

■写真説明 川底にひざをつけて、懸命に捜索する岡山県警の捜査員ら = 堺市堺区の大和川で8日午前11時47分、小川昌宏撮影

岡山・元同僚女性殺害: 「遺体切断、大和川に」 容疑者が供述

“2011/10/08 毎日新聞 夕刊 7ページ 458文字

岡山県警は6日、元同僚の女性を殺害したとして、大阪市住吉区沢之町の無職、住田紘一容疑者(29)を殺人容疑で逮捕した。被害者は、岡山市東区瀬戸町瀬戸の派遣社員、加藤みささん(27)。加藤さんは発見されておらず、県警は岡山西署に捜査本部を設置した。

住田容疑者は「(住吉区内の)カレーで遺体をバラバラにし、一部を(大阪市と堺市の境界の)大和川に捨てた」と供述しているといい、捜査本部は8日、大和川の捜索を始めた。

逮捕容疑は先月30日午後6時半ごろ、勤務先だった岡山市北区のIT関連会社の駐車場に止めた同容疑者の乗用車内で、同じ会社で働く加藤さんを刃物で殺害したとされる。

これまでに、2人が勤務していた岡山市北区のIT関連会社の敷地内にある建物からは加藤さんの血痕が見つかり、住田容疑者が借りていた住吉区内のカレーからは、血液が付着したワンピースが発見されている。

同社によると、加藤さんと住田容疑者はいずれも事務を担当。業務上のやりとりはあったが、トラブルなどは確認されていないという。【五十嵐朋子、原田悠自】

岡山・元同僚女性殺害: 遺体の一部発見

“2011/10/09 朝日新聞 朝刊 32ページ 827文字

岡山市北区で派遣社員の加藤みささん(27)が殺された事件で、県警は8日、大阪・大和川の捜索に着手した。「遺体は細かく切断し、川などに遺棄した」。そう供述する住田紘一容疑者(29)の自宅もすぐ近く。近所の人「考えられへん」と驚きの表情を見せた。

大阪市住之江区の大和川大橋。午前11時過ぎ、ウエットスーツ姿の捜査員ら約10人が上流側から川に入り、幅30メートルほどに散った。

足首ほどの水深の中、這(は)うように網状のかごで川底をすくい続ける。少しずつ下流方向に進みながら、約90メートルを丹念に調べた。

橋の上では、血痕が付いていないか、別の捜査員らが橋の欄干をピンセットやライトを使って調べた。捜索は午後4時半ごろに終わった。県警は「遺体は発見されなかった」と発表。9日も、約20人態勢で下流に範囲を広げて捜索する。

●「自慢の子だったはず」 住田容疑者、近所の人ら

大阪市住吉区の住田容疑者の自宅は大和川大橋から直線距離で約2キロ。住宅街の一角にある3階建てで、家の前にオートバイ2台と自転車2台が止められていた。遺体の解体現場とみられるガレージまで、歩いて7分ほど。ガレージは古く、さびついていた。

近所の女性(52)によると、住田容疑者は両親と暮らす。以前は近くのアパートにいたが、十数年前に移ってきたという。女性の娘と同じ中学校だったといい、「抜群に頭がよかった」という。別の女性(70)は9月以降、住田容疑者の姿を5、6回見かけた。「『帰ってたの?』と聞いたら、『大阪に転勤になった』と言っていた」。手ぶらで外出することが多く、逮捕の数日前にも笑顔で「こんにちは」とあいさつされた。

住田容疑者は地元の公立大学を卒業後、紳士服の販売店員になったという。「事件起こすなんて考えられへん。礼儀正しくて、頭がよくて。自慢の息子さんだったはず」

(藤原学思、西山良太)

【写真説明】

大和川を捜索する県警の捜査員ら = 大阪市住之江区、中里友紀撮影

岡山・元同僚女性殺害：遺体の一部を発見 車庫でノコギリも - - 大阪

“2011/10/09 毎日新聞 大阪朝刊 23ページ 320文字

岡山市東区の派遣社員、加藤みささん(27)が殺害された事件で、殺人容疑で岡山県警に逮捕された大阪市住吉区の無職、住田紘一容疑者(29)が今月1日から借りていた住吉区内のガレージで、ノコギリが見つかったことが捜査関係者への取材で分かった。県警捜査本部が捜索した際に発見した。

捜査本部は、血液が付着した状態でガレージから見つかったワンピースも含め付着物をDNA鑑定している。ワンピースは加藤さんの着衣とみている。一方、「遺体をガレージでバラバラにして大和川など大阪府内の4カ所に捨てた」などとする供述に基づき、加藤さんとみられる遺体の一部を大阪府内で発見したが、大和川の捜索で手がかりが見つからず9日以降も続ける。【五十嵐朋子、石井尚】

遺体の一部を発見 岡山の元同僚女性殺害 【大阪】

“2011/10/09 毎日新聞 朝刊 25ページ 405文字

岡山市東区の派遣社員、加藤みささん(27)が殺害された事件で、岡山県警捜査本部は8日までに、殺人容疑で逮捕した大阪市住吉区の無職、住田紘一容疑者(29)の供述に基づき、加藤さんとみられる遺体の一部を大阪府内で発見した。さらに、住田容疑者が今月から借りていた住吉区内のガレージの捜索でノコギリが見つかったことが、捜査関係者への取材で分かった。

捜査本部は、血液が付着した状態でガレージから見つかったワンピースも含め、DNA鑑定している。ワンピースは加藤さんの着衣とみている。一方、「遺体をガレージでバラバラにして大和川など4カ所に捨てた」などとする住田容疑者の供述に基づき始めた大和川の捜索では、手がかりが見つからない。

参考事件住田紘一（澁谷恭正が似てる）。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>
=====

住田容疑者の逮捕容疑は、先月30日午後6時半ごろ、10日前まで勤務していた岡山市北区のIT関連会社の駐車場に止めた車の中で、加藤さんを刃物で殺害したとされる。【五十嵐朋子、石井尚】

岡山・元同僚女性殺害：大阪・住吉の車庫にノコギリ 容疑者、今月借りる

“2011/10/10 大阪読売新聞 朝刊 34ページ 594文字

岡山市の派遣社員、加藤みささん(27)が殺害された事件では、県警が9日も遺体の捜索や現場検証などの捜査を進めた。

殺害現場とされる岡山市北区のIT関連会社の駐車場で、殺人容疑で逮捕した無職住田紘一容疑者(29)(大阪市住吉区沢之町2)を立ち合わせて現場検証を実施。同社は、住田容疑者の元勤務先で、加藤さんも別の部署で働いていた。発表などによると、住田容疑者は先月30日、加藤さんを、駐車場に止めたマイカー内で刺殺したとされる。捜査員は午前中、駐車場に住田容疑者を連れて行き、捜査車両内から犯行当時に車をどこに止めていたかなどを確認。午後も社内などを調べたという。

一方、住田容疑者が遺体を遺棄したと供述している大和川(大阪市住之江区、堺市堺区)では9日も、県警が前日に続いて遺体を捜索したが発見されなかった。同川に架かる大和川大橋の橋脚では血痕などの確認をしたが、見つからなかったという。県警は10日もさらに範囲を広げて捜索する。

◆取調室の窓から逃走図る

住田紘一容疑者(29)が8日に地検で取り調べを受けた際、取調室の窓から逃げようとしていたことがわかった。

捜査関係者によると、住田容疑者は腰縄をつけられていたが、これはずして窓に近づいたという。地検は「捜査中なので、コメントしない」としている。

写真 = 大和川を捜索する県警の捜査員ら(9日午後2時42分、大阪府内で)

岡山殺人 容疑者携帯 元同僚被害者と通信記録なし

“2011/10/10 大阪読売新聞 朝刊 39ページ 401文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、岡山県警に殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区沢之町2、無職住田紘一容疑者(29)と加藤さんの携帯電話には、通話やメールをやり取りした記録がないことが捜査関係者への取材でわかった。勤務していた岡山市内のIT関連会社でも職場が違い、特に接点はなかったという。県警は住田容疑者が、なぜ加藤さんを狙ったのか追及している。

住田容疑者は9月30日午後6時30分頃、同社駐車場に止めたマイカー内で加藤さんを殺害したとされる。この日、住田容疑者は同社に来て社員証を返した後、アパートを引き払い、駐車場に帰って来ていた。同社の普段の退社時刻は午後5時45分。当日は午後6時頃、住田容疑者と加藤さんが駐車場へ歩く姿を、防犯カメラがとらえていた。このため、県警が接点を捜査。携帯に互いの通信記録がなく、個人的なつながりは確認されていないという。

写真 = 加藤みささん

“「遺棄」の川を捜索 大阪、容疑者宅の近く 27歳女性殺害 / 岡山県

“2011/10/10 朝日新聞 朝刊 35ページ 515文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(27) = 同市東区 = が殺された事件で、加藤さんとみられる遺体の一部が、殺人容疑で逮捕された住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が「遺体を切断した」と供述した大阪市内のガレージからみつかったことが、捜査関係者への取材で分かった。胴体の一部とみられるという。捜査関係者によると、ガレージは住田容疑者が自宅近くに借りていた。遺体の一部は黒いゴミ袋に入っており、近くでノコギリも見つかったという。県警は住田容疑者を死体損壊や死体遺棄容疑でも調べるとともに、DNA鑑定で身元の確認を急ぐ。

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

8日に送検された住田容疑者が、岡山地検の検察官の取り調べの際、地検2階の窓から飛び降りようとしたことも捜査関係者への取材で明らかになった。椅子にくくり付けられた腰縄をズボンごと脱いで外し、窓へ駆け寄ったが、飛び降りる前に検察官に取り押さえられたという。県警は逃走を図ったとみている。

岡山地検は取材に対し、「捜査中なのでコメントできない」としている。

県警は9日も「川に遺体を遺棄した」という住田容疑者の供述をもとに大阪市住之江区の大和川大橋付近を捜索したが、発見できなかった。捜索は10日も続ける。

(西山良太)

岡山・元同僚女性殺害：遺体発見場所は「切断」ガレージ

“2011/10/10 毎日新聞 大阪朝刊 25ページ 553文字

岡山市東区の派遣社員、加藤みささん(27)が殺害された事件で、加藤さんとみられる遺体の一部が見つかった場所は、岡山県警に殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区の無職、住田紘一容疑者(29)が借りている同区内のガレージであることが捜査関係者への取材で分かった。また、住田容疑者が岡山地検の取り調べ中に腰縄を外して、窓から飛び降りることを図ったことが分かった。

住田容疑者は8日に送検され、岡山地検の取調室で検察官の取り調べを受けた際、窓を開けて飛び降りようとしたが取り押さえられた。逃走しようとしたか、自殺を図った可能性があるともみられる。住田容疑者は、同区の自宅の北約500メートルにあるガレージを事件発生翌日の今月1日から借りており、ガレージから黒いポリ袋のようなものを持ち出す姿も周辺住民に目撃されている。同容疑者は「ガレージで遺体を切断した」と供述しており、ガレージの捜索では血液の付着したワンピースやノコギリ、ナイフなども見つかった。県警捜査本部は、遺体の一部や押収品の付着物をDNA鑑定して、身元確認を進めている。

一方、捜査本部は9日も大阪市と堺市の境界を流れる大和川の大和川大橋付近を捜索した。しかし、加藤さんに結びつく手がかりは見つからなかった。10日も大和川で捜索を継続する。【五十嵐朋子、原田悠自】

元同僚女性刺殺 殺害現場の駐車場検証 容疑者から車両位置など確認 = 岡山

“2011/10/11 大阪読売新聞 夕刊 15ページ 523文字

岡山市内の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、岡山県警は、殺人容疑で逮捕した大阪市住吉区沢之町2、無職住田紘一容疑者(29)が自宅近くに借りていたガレージ内から包丁やノコギリなど複数の刃物を押収した。血痕の付いた刃物もあり、県警は遺体の切断に使ったとみている。

捜査関係者によると、住田容疑者は「ガレージで遺体を切断し、4か所に遺棄した」と供述。県警は中に入った包丁やナイフ、ノコギリなどの鑑定を進めている。ガレージで見つかった遺体の一部について、DNA型鑑定の結果、加藤さんと確認された。

これまでの自宅の捜索では、加藤さんの預金通帳や保険証などを押収している。

また、殺害場所について、住田容疑者は当初、勤務先だったIT関連会社(岡山市北区)駐車場に止めたマイカー内としていたが、「会社の倉庫だった」と供述を変えた。殺害後、雑巾やモップで血を拭いたといい、県警は倉庫内で少量の血痕を検出した。

県警は、住田容疑者が9月30日午後6時30分頃、倉庫に加藤さんを連れて行って刺殺した後、車のトランクに遺体を隠し、大阪まで運んだとみている。普段、倉庫の出入り口は施錠されており、鍵を開けた経緯を追及している。

写真 = 加藤みささん

車庫から遺体の一部 そばにノコギリ 岡山・女性殺害捜査 【大阪】

“2011/10/11 朝日新聞 夕刊 13ページ 240文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27) = 同市東区 = が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された元同僚の無職住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が「加藤さんを刺し殺し、遺体は車のトランクに入れて運んだ」と供述していることが捜査関係者への取材でわかった。

岡山県警は10日、DNA鑑定の結果、住田容疑者が自宅近くに借りたガレージ内の捜索で見つかった遺体の一部は、加藤さんと確認したと発表した。ガレージ内には血の付いたナイフや包丁、ノコギリなどもあったという。(西山良太、藤原学思)

岡山・元同僚女性殺害：勤務先倉庫で殺害 遺体一部は元同僚女性と確認

“2011/10/11 毎日新聞 大阪夕刊 11ページ 514文字

岡山市の女性派遣社員殺害事件で、岡山県警捜査本部は11日、殺人容疑で逮捕した元同僚の無職、住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が、被害者の加藤みささん(27) = 岡山市東区 = を刃物で殺害した現場は、2人が勤務していたIT関連会社の倉庫だったと発表した。住田容疑者の供述に基づき、倉庫内から血痕を発見した。

捜査本部によると、住田容疑者は「モップや雑巾で現場を拭いた」と供述している。事件発生約1時間後の先月30日午後7時半ごろ、倉庫に向かう容疑者の車が防犯カメラに映っていた。

また、捜査本部は、住田容疑者が借りた住吉区のガレージで見つかった遺体の一部をDNA型鑑定し、加藤さんと確認した。ガレージの貸主に住田容疑者が連絡したのは事件発生翌日の今日1日で、同日中に契約したという。ガレージからは血液の付着したワンピースやノコギリが見つかった。

大阪市と堺市の境界を流れる大和川などに遺体の一部を捨てたとする供述に基づく同川の捜索は、11日も続けている。

さらに、捜査関係者によると、加藤さん名義の預金通帳や健康保険証が住田容疑者の自宅から見つかった。通帳を使って金を引き出そうとした形跡はないという。【五十嵐朋子、石井尚】

岡山女性殺害 ガレージに複数の刃物 「犯行は会社倉庫」供述

“2011/10/13 朝日新聞 朝刊 29ページ 1095文字

岡山市で派遣社員の女性を殺害したとして、元同僚の無職住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が殺人容疑で逮捕されてから13日で1週間を迎える。殺害現場が明らかになるなど事件の解明は進むが、2人の接点は見えないまま。なぜ事件が起きたのか、謎は深まるばかりだ。

●倉庫内で犯行か

県警によると、住田容疑者は9月30日午後6時半ごろ、岡山市北区のIT関連会社の倉庫内で加藤みささん(当時27) = 同市東区 = を刃物で殺した疑いがある。

事件の前後とみられる現場付近の様子が同社の防犯カメラなどに映っていた。午後6時すぎに2人は倉庫の方に向かって並んで歩き、約30分後、今度は住田容疑者が1人で同じ敷地内にある系列会社を出入り。県警はこの間に加藤さんが殺害されたとみる。

系列会社では血を拭き取る道具を探したとみられ、建物内の壁などには加藤さんの血の跡があったという。住田容疑者は「雑巾やモップなどで倉庫内の血を拭いた」と供述。午後7時半ごろには倉庫の方へ車をバックさせる様子も映っており、県警はこの後、遺体をトランクに入れて大阪に運んだとみている。

県警によると、倉庫は普段から施錠してある。鍵も無くなっていないといい、住田容疑者は合鍵を作っていたとみられる。

住田容疑者は翌1日、大阪市住吉区の実家近くにガレージを借りており、「遺体を切断した」と供述。逮捕翌日の7日には県警がガレージから加藤さんの遺体の一部を発見している。ほかにも血のついたナイフや包丁、ノコギリなど複数の刃物が見つかり、県警はここで遺体を切断したとみて凶器の特定を急ぐ。

一方、切断した遺体を遺棄した場所については「ゴミ捨て場や川など大阪府内の4カ所に捨てた」と供述。県警は8日から大阪市の和川大橋付近の川を捜索しているが、川から遺体は発見されていない。

●携帯、通信記録なし

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

=====
事件のおおまかな流れは分かっていたものの、2人の接点は今も不明だ。IT関連会社ではフロア、所属課ともに別々に働いていた。県警の捜査でも親しくしていた様子はいくつかは、携帯電話に2人の通信記録はないという。

県警によると、住田容疑者は事件10日前の9月20日に同社を依願退職。30日午前中には会社にIDカードを返却し、岡山市内の部屋も引き払ったという。

だがこの日の夕、加藤さんが仕事を終えた後で事件が起きたとみられる。なぜ加藤さんが狙われたのか。県警は詳しい犯行動機を明らかにしていないが、捜査関係者は「男女関係のもつれや強盗目的、恨みなどではないようだ。衝動的な犯行とも言えない」と話している。(西山良太、藤原学思)

【図】

事件の流れ

岡山・元同僚女性殺害：逮捕から1週間 目撃ゼ口、深まる謎

“2011/10/13 毎日新聞 大阪朝刊 26ページ 1080文字

◇手に血、会社と倉庫行き来

岡山市の女性派遣社員が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区の無職、住田紘一容疑者(29)が、殺害現場となった岡山市北区のIT関連会社の倉庫と隣の会社建物を行き来していたことが12日、捜査関係者への取材で分かった。事件発生は退社時間と重なり、住田容疑者が複数の社員とすれ違う姿が防犯カメラに映っていた。しかし目撃証言はなく、社員らは同僚が巻き込まれたことに気づけなかった。住田容疑者逮捕から13日で1週間。なぜ殺害し遺体を大阪まで運んで切断したのか。動機は謎のままだ。

捜査関係者によると、住田容疑者は先月30日午後6時半ごろ、派遣社員の加藤みささん(27)＝岡山市東区＝を倉庫内に誘い込み、刃物で殺害したとされる。倉庫は鍵がかかっており、住田容疑者があらかじめ合鍵で倉庫を開けたとみられる。

防犯カメラには午後6時すぎから、会社を出る加藤さんや2人が並ぶように倉庫の方向に歩く姿、隣にある系列の別会社の中を歩く住田容疑者、倉庫に近づく住田容疑者の車―が映っていた。

住田容疑者は岡山県警捜査本部の調べに「モップやぞうきんで血を拭いた」と供述。手に付いた血をトイレで洗い流した後、血まみれの床を掃除するため、数回にわたって別会社の建物から、モップやぞうきを倉庫に運んだとみられる。その後、車を倉庫につけ、遺体をトランクに入れて走り去ったらしい。

住田容疑者は手に血が付着した状態で建物間を移動したとみられるが、社員ら約500人の中で不審な様子に気づく人はいなかった。倉庫内に争った痕跡もあったが、加藤さんの悲鳴を聞いたとの証言も出ていない。

2人は仕事上のやりとりがあった程度で、親しい関係ではなかったという。捜査本部は、殺害動機について住田容疑者を追及している。【五十嵐朋子、石井尚】

◆事件が発生した9月30日の経過◆(岡山県警調べ)

午後6時すぎ 加藤さんが歩いて会社を出る姿が社員通用口横の屋内カメラに映る

加藤さんが住田容疑者と歩く姿が屋外カメラに映る

午後6時半ごろ 倉庫で加藤さんが殺害される。別会社の建物内を歩く住田容疑者の姿がこの建物内のカメラに映る

午後6時半～45分 住田容疑者が倉庫内を掃除。

建物でモップやぞうきんを見つけ、建物と倉庫を往来する

午後7時半ごろ 倉庫に近づく住田容疑者の車が屋外カメラに映る

加藤さんの遺体をトランクに乗せて走り去る

女性遺体と確認 岡山殺害、車庫で発見 【大阪】

“2011/10/16 大阪読売新聞 朝刊 38ページ 290文字

岡山市内の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、加藤さんの告別式が15日、同市東区の斎場で営まれ、友人ら約300人が参列した。

岡山県警などによると、父、裕司さん(58)が親族を代表してあいさつし、「娘は人と争ったり、人を傷つけたりすることのない優しい子でした」と語った。事件については「悔しい、残念、哀れ。どの言葉も当てはまらない」と無念さを募らせていたという。

一方、殺人容疑で逮捕された大阪市住吉区沢之町2、無職住田紘一容疑者(29)が「被害者と遺族に謝罪の意思を持っている。一生かけて償いたい」と話していることがわかった。この日、接見した弁護士が明らかにした。

見えぬ2人の接点 岡山の27歳女性殺害、逮捕1週間 / 岡山県

“2011/10/16 朝日新聞 朝刊 34ページ 247文字

刃物で殺害された派遣社員加藤みささん(当時27)の葬儀が15日、岡山市東区の葬儀場で営まれた。家族や友人ら約300人が参列し、別れを惜しんだ。

県警によると、父の裕司(ひろし)さん(58)は「悔しいや残念、哀れ、という言葉はどれも当てはまらない」とあいさつ。みささんについて「人と争ったり、人を傷つけたりはしない優しい子だった」と話したという。

棺(ひつぎ)には、みささんが結婚する時のために母親が用意していた着物や、友人からの手紙、みささんが好きだった猫のぬいぐるみなどが入れられたという。

岡山の女性殺害 告別式に300人参列

“2011/10/18 朝日新聞 朝刊 33ページ 530文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(当時27)が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された住田紘一容疑者(29)=大阪市住吉区=が弁護士に、加藤さんを殺すつもりではなかったという趣旨の話をしていることがわかった。接見した弁護士が17日、明らかにした。

弁護士によると、住田容疑者は9月30日夕、勤めていた岡山市北区のIT関連会社に用事があって戻ったという。弁護士には「処分しなければいけない用事があった」と話しており、その協力を頼もうとしたのが同社で庶務の仕事をしていた加藤さんだったらしい。

加藤さんは同日午後6時ごろに退社。住田容疑者は倉庫に連れて行って協力を頼んだが、結局受け入れてもらえず、パニック状態になって胸部や腹部を刺したという。ナイフは要求を聞いてもらえない時に脅すつもりで持っていたとみられる。

一方、その後の死体遺棄の理由については「すべてを消し去りたかった」と話しているという。遺体の切断に使用したというノコギリなども殺害後に購入したとみられる。

8日の検察官の取り調べの際に岡山地検2階の窓から飛び降りようとしたことについて、住田容疑者は「自殺したかった」と説明していた。今は「一生かけて罪を償いたい」と話しているという。(西山良太、藤原学思)

加藤さん葬儀、父親あいさつ 岡山の殺害事件 / 岡山県

“2011/10/27 大阪読売新聞 朝刊 39ページ 297文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、岡山県警は26日、殺人容疑で逮捕した元同僚の住田紘一容疑者(29)(大阪市住吉区沢之町2)が「女性を拉致して大阪へ連れて行こうと思ったが、騒がれたため刺して殺した」と供述していることを明らかにした。「同僚だった女性数人の誰かが来るのを待ち伏せし、加藤さんが最初に現れた」とも話しているという。

=====
県警によると、住田容疑者は9月30日午後6時過ぎ、会社正門近くで、退社した加藤さんに「ちょっと用事がある」と声を掛け、会社の倉庫に連れて行き、手錠をはめようとしたが騒がれ、脅すために持っていたバタフライナイフで胸や腹を刺し、殺害したとされる。

「殺すつもりなかった」 容疑者、弁護士に話す 岡山・27歳女性殺害 / 岡山県

“2011/10/27 朝日新聞 朝刊 27ページ 506文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27) = 同市東区 = が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が「会社関係者への恨みから、会社の女性を拉致しようと考えた。抵抗されたので殺した」と供述していることが26日、捜査関係者への取材でわかった。

県警は同日、住田容疑者を死体損壊や死体遺棄などの疑いで追送検したと発表した。岡山地検は27日に住田容疑者を殺人罪などで起訴する方針。

県警によると、住田容疑者はそれまで勤めていたIT関連会社の同僚女性のだれか1人を拉致し、大阪の自宅に連れ帰ることを計画。事件当日、住田容疑者が会社付近で待ち伏せしていたところ、同社に派遣されていた加藤さんが退社してきたという。

加藤さんを会社の倉庫に連れて行ったが、「抵抗され、持っていたバタフライナイフで刺し殺した」と供述。拉致のため用意した手錠などが遺体を切断したとされる自宅近くのガレージで見つかったという。

住田容疑者は9月30日夕に加藤さんを殺害し、遺体を大阪へ運んでガレージで切断したうえ、大阪市住吉区内のゴミ集積場3カ所と大和川に捨てた疑いがある。(西山良太)

【写真説明】

加藤みささん

岡山・元同僚女性殺害：女性拉致を企図 容疑者が供述

“2011/10/27 毎日新聞 大阪朝刊 31ページ 445文字

岡山市の女性派遣社員が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された元同僚の大阪市住吉区、無職、住田紘一容疑者(29)が「女性を拉致して大阪に連れて行きたかった」と供述していることが岡山県警捜査本部への取材で分かった。住田容疑者は「元同僚の女性のうち声をかけやすい人を選んだ」とも供述。捜査本部は、加藤みささん(27)を拉致しようとしたが、抵抗されたため殺害したとみている。

捜査本部によると、住田容疑者の自宅から、勤務していた岡山市北区のIT関連会社から退職前に盗んだとみられるシュレッダーボックス(高さ約90センチ)が見つかり、住田容疑者は「女性を入れて監禁にしようと思った」と供述。元同僚の女性に声をかけようと待ち伏せ、退社してきた加藤さんを会社倉庫に誘い込んだ。また、住田容疑者が借りていた大阪市住吉区内のガレージから、拉致に使ったとみられる手錠が見つかった。捜査本部は26日までに住田容疑者を窃盗、死体損壊の容疑で岡山地検に追送検。同地検は27日にも殺人罪などで起訴する。【五十嵐朋子】

岡山女性殺害容疑者「拉致しようとし騒がれて刺した」

“2011/10/28 大阪読売新聞 朝刊 29ページ 697文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、殺人と死体損壊・死体遺棄、窃盗罪で起訴された元同僚の住田紘一容疑者(29)(大阪市住吉区沢之町2)の弁護人を務める杉山雄一、浜崎一両弁護士が27日、岡山市内で記者会見した。主なやりとりは次の通り。

—犯行に至った経緯は。

「結婚すると聞きつけた会社関係者の男性と女性の関係を破綻させるのが目的。女性は住田容疑者の元交際相手で、男性と顔見知りの女性を監禁して、あたかも男性の行為に見せようと考えていた」

—殺人は計画的ではなかった、ということか。

「その通り。住田容疑者は当初、加藤さんを逮捕・監禁して大阪に連れて行く目的だった。押し倒し、手錠を片手に掛けたところ、予期していない抵抗を受け、気が動転して殺害した」

—監禁するために用意したものは。

「手錠、足錠、粘着テープ、シュレッダーボックス(鉄製の箱)。手錠はインターネットで購入したらしい」

—監禁方法は。

「大阪の自宅でシュレッダーボックスの中に入れようと計画していた。いずれは釈放しようとしていたとも話している」

—どのように男性の仕業にしようと考えたのか。

「具体的な点は公判で明らかにしていきたい」

—なぜ遺体を損壊、遺棄したのか。

「『何もかも消してしまいたい』という気持ち。切断に使用したのこぎりは殺害後、大阪府内で購入した」

—今後の弁護方針は。

「住田容疑者は起訴事実を認めており、事実関係を争う予定はない。住田容疑者の謝罪の気持ちなど情状面の立証をしていきたい」

写真 = 住田容疑者の起訴を受けて会見を行う(右から)杉山、浜崎両弁護士(岡山市内で)

岡山女性殺害容疑者 元交際女性の結婚阻止するため犯行

“2011/10/28 大阪読売新聞 朝刊 34ページ 288文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された元同僚の住田紘一容疑者(29)(大阪市住吉区沢之町2)が「以前に交際していた女性が結婚すると知り、事件を起こして結婚相手の男性の犯行に見せかけ、阻止しようと思った」と供述していることがわかった。同容疑者に接見した弁護士が27日、明らかにした。

弁護士の説明などによると、住田容疑者は「男性と面識のある女性を拉致・監禁しようと思った。たまたま最初に出会った加藤さんを狙ったが、抵抗されてパニックになり、殺害した」と話しているという。

岡山地検は同日、住田容疑者を殺人、死体損壊・遺棄罪などで起訴した。

“「拉致計画」容疑者が供述 手錠など見つかる 岡山・27歳女性殺害 / 岡山県

“2011/10/28 朝日新聞 朝刊 29ページ 678文字

「以前交際していた女性と、会社関係者の男性の結婚を破綻(はたん)させたかった」。派遣社員の加藤みささん(当時27)が殺害された事件で、殺人罪などで起訴された住田紘一容疑者(29)の弁護士が27日、岡山市で会見を開いた。身勝手な動機の一部が明らかになった。

会見を開いたのは、主任弁護人を務める杉山雄一弁護士と浜崎一弁護士。事件の経過を説明した。

両弁護士によると、岡山市北区のIT関連会社に勤めていた住田容疑者には以前、会社関係者の交際女性がいた。その女性と、同じく会社関係者の男性との結婚話を聞き、「男性と面識のある会社の女性を連れ去り、男性の仕業に見せかければ、2人の関係を破綻させられると考えた」と供述しているという。

どうやって男性の仕業に見せかけようとしたのかについては「公判で明らかにする」とした。

事件があった9月30日夕、住田容疑者は「倉庫の中で見てもらいたいものがある」と言って加藤さんを倉庫に呼び出した。拉致のために手錠や足錠、口を塞ぐための粘着テープ、女性を閉じこめるための大型の箱なども用意。「大阪の自宅で監禁し、その後解放するつもりだった」と話しているという。凶器のバタフライナイフについては、住田容疑者は「約10年前から護身用のために所持していた」と説明している。

弁護士は「当初は監禁するつもりだったが、予期していなかった被害者の抵抗に気が動転し、殺してしまった」として、公判で殺害が計画的ではなかったと主張する方針という。(西山良太、藤原学思)

【写真説明】

会見を開いた杉山雄一主任弁護士(右)と浜崎一弁護士 = 岡山市北区

岡山・元同僚女性殺害：被告、別の男性の仕業に見せかけようと

“2011/10/28 朝日新聞 朝刊 38ページ 394文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27)が殺害された事件で、殺人容疑で逮捕された元同僚の住田紘一容疑者(29) = 大阪市住吉区 = が「勤務先関係者の男性の仕業に見せかけるため、女性の監禁を計画した」と接見した弁護士に話していることがわかった。杉山雄一弁護士らが27日に会見した。岡山地検は同日、殺人や死体損壊などの罪で住田容疑者を起訴した。

杉山弁護士らによると、住田容疑者は、勤務先のIT関連会社の関係者の男性と、自分が以前交際していた女性の結婚話を聞き、2人の関係を破綻(はたん)させようと計画。だれか別の女性を監禁し、男性に罪を着せるつもりだったが、待ち伏せ場所に偶然現れた加藤さんを連れ去ろうとして抵抗されたため、殺害したという。

起訴状によると、住田容疑者は9月30日、岡山市の倉庫内で加藤さんを殺害、自宅近くのガレージで遺体を切断し捨てたとされる。

【写真説明】

加藤みささん

元交際女性の破局狙う 容疑者、弁護士に監禁目的主張 岡山・27歳女性殺害 / 岡山県

“2011/10/28 朝日新聞 夕刊 13ページ 342文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27)が殺害された事件で、加藤さんの両親が28日、岡山県警を通じてコメントを出した。

両親の心境はA4用紙3枚につづられた。父親は「泣き叫んで助けを求めている娘の姿を思い浮かべると、かわいそうでたまらない。涙をとめることができない」「娘を救ってやることのできなかつた悔しさ、無力さが毎日家族を責めたてる」と記した。

IT関連会社でかつて同僚だった住田紘一被告(29) = 大阪市住吉区 = は、殺害した後に遺体を切断して遺棄したとして、27日に殺人罪などで起訴された。母親は「娘は『どうして私がこんな目にあわないといけんの?』と訴えているように思います」「娘の無念さをはらすのを見届けるまでは、死ぬに死ねない気持ちでいっぱいです」とつづった。(西山良太)

元恋人の結婚相手に罪着せたくて 「誰かを監禁」計画、岡山・殺害容疑 【大阪】

“2011/10/28 毎日新聞 大阪朝刊 29ページ 412文字

岡山市の女性派遣社員殺害事件で27日に殺人、死体損壊などの罪で起訴された大阪市住吉区の無職、住田紘一被告(29)が、元同僚の加藤みささん(27)を殺害した動機について、「大阪に連れ帰って監禁し、(住田被告の元交際相手と婚約した)加藤さんの知人男性の仕業に見せかけようと思った」と話していることが弁護人への取材で分かった。

住田被告の元交際相手は加藤さんとは別人。弁護人によると、住田被告は「元交際相手が他の男性と結婚すると聞き2人の関係を壊したかった」と説明。男性と加藤さんが職場の知り合いだったため、加藤さんを監禁して男性の仕業に見せかけようと思ったという。

弁護人によると、事件発生の9月30日夕、住田被告は「見てもらいたいものがある」と言って加藤さんを会社倉庫に誘いこんだが、激しく抵抗されて動転し、バタフライナイフで胸や腹を刺した。「すべてを消したかったので遺体を切断して捨てた」と話しているという。【五十嵐朋子】

元同僚女性殺害 弁護人「抵抗受け動転」 記者会見、犯行経緯語る = 岡山

“2011/10/29 毎日新聞 大阪朝刊 30ページ 788文字

岡山市の派遣社員殺害事件で、元同僚の女性を殺害して遺体を切断し捨てたとして、大阪市住吉区の無職、住田紘一被告(29)が殺人、死体損壊罪などで起訴されたのを受け、被害者の加藤みささん(27)の両親は28日、岡山県警を通じて手記を公表した。

父親は「怖かっただろうな、辛(つら)かっただろうな、痛かっただろうな。哀れな娘を救ってやるのができなかった悔しさ、無力さが毎日家族を責めたてる」とし、母親は「娘の無念さをはらすのを見届けるまでは、死ぬに死ねない気持ちでいっぱいです」と、愛する娘を奪われた憤りや悲しみをつづっている。【五十嵐朋子】

両親の手記は次の通り(抜粋)。

恐怖に顔を引きつらせ、泣き叫んで助けを求めている娘の姿を思い浮かべると、可哀そうで、可哀そうでたまらない。涙をとめることができない。

すでに殺されているとも知らない私たちは、行方不明を感じてから、一体娘に何が起きているのかわからず不安だらけの毎日を過ごしていた。

そっと撫(な)でてやる体も、抱きしめてやれる体も、戻ってこない。花嫁として送り出してやる喜びも、やがて生まれてくるであろう孫たちも見ることができない。娘の成長も、未来も奪われてしまった。家族が受けた心の痛みは一生消えることはないだろう。娘を守ってやるのができなかった負い目を引きずりながら、一生を過ごしていくことだろう。たとえ神様や仏様が許すとしても、私たち家族は絶対に許さない。(父親の思い)

娘は「どうしてこんな目にあわないといけんの? どうして? お母さん、どうして?」と訴えているように思います。

娘は何も悪いことをしていないのに、犯人の自己都合、自分勝手な行動で、娘を巻き込み大切な命を奪われ怒りを感じています。

娘の無念さをはらすのを見届けるまでは、死ぬに死ねない気持ちでいっぱいです。(母親の思い)

■写真説明 加藤みささん

娘救えず、悔しさ・無力さ 岡山の派遣社員殺害、遺族コメント 【大阪】

“2012/04/18 大阪読売新聞 朝刊 31ページ 289文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(27)が殺害された事件で、県警は17日、殺人と死体損壊・死体遺棄、窃盗罪で起訴された元同僚の住田紘一被告(29)を窃盗の疑いで再逮捕した。

発表によると、住田被告は昨年6月と7月、勤務先の岡山市内のIT関連会社の倉庫からテレビと掃除機を盗んだ疑い。住田被告は今年3月、勾留先の岡山拘置所からこの窃盗事件を打ち明ける封書を、地検の担当検事に郵送。県警は、大阪市内の実家から被害品を押収するなど捜査していた。

起訴状などによると、住田被告は昨年9月30日午後6時過ぎ、加藤さんを同社の別の倉庫に連れて行き、ナイフで胸や腹を刺し、殺害したなどとされる。

岡山・元同僚女性殺害：娘守れず、心に一生消えぬ痛み 両親が手記

“2012/04/27 大阪読売新聞 朝刊 33ページ 165文字

岡山市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)が元同僚の住田紘一被告(29)(殺人、死体損壊・死体遺棄罪などで起訴)に殺害されたとされる事件で、地検は26日、住田被告を窃盗罪で起訴した。

起訴状などによると、住田被告は昨年6、7月、勤務先だった岡山市内のIT関連会社倉庫からテレビと掃除機(時価約1万5000円)を盗んだ、とされる。

派遣社員殺害元同僚再逮捕 窃盗容疑 拘置所から封書で告白 = 岡山

“2012/09/27 朝日新聞 朝刊 12ページ 383文字

無職 加藤みさ(名古屋市名東区 77)

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

=====
21日朝刊に小さな訃報(ふほう)が掲載されました。遠藤泰生さん、83歳。私たちが慕う、被爆者のために偉大な活動をされた方でした。

遠藤さんは中学生の時、広島で被爆しました。その後、中学校教員の職を辞して愛知県の被爆者団体を再建、その中心となって「再び被爆者をつくらない」「核兵器をなくせ」「原爆被害者に国家補償を」と訴え続けられました。

本当に無欲な人で、自身の被爆体験を小中校生に語り伝えることを自分の義務とされてきました。

最近、穏やかに過ごされていたようですが、福島第一原発事故の後には福島の人たちを思って心を痛めていらっしゃいました。

被爆者も被曝(ひばく)者も同じです。私は昨秋、三陸沿岸へ祈りの旅をしてきました。私たちは遠藤さんの志をしっかりと受け継ぎ、「世界に平和を」「原発再稼働反対」の活動を続けていきます。

同僚殺害の29歳 窃盗罪でも起訴 = 岡山

“2012/09/30 朝日新聞 朝刊 23ページ 452文字

●爽やかだった

21日に終了した「薄桜記」(BSプレミアム)は、最近にはない内容の時代劇で爽やかだった。丹下典膳の、元禄の頃の武士としての生き方と無欲な人格。折り目正しい山本耕史の演技。濱田貴司による音楽は、典膳の悲痛さと理不尽に耐える心を表現していた。

(名古屋市・加藤みさ・無職・77歳)

●眠いけど楽しい

「レコメン！」(月一木曜、文化放送)内の「KちゃんNEWS」(火曜)は、大好きなNEWSの小山慶一郎さんが出ているので、眠たいですが楽しみながらラジオを聞いています。ゲストによって盛り上がり度が違っていたり、とにかく飽きません。

(山口県宇部市・森田舞羅・高校生・15歳)

*

テレビ・ラジオ番組のご感想を 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して104・8011朝日新聞文化くらし報道部「はがき通信」係へ。FAX03・5541・8611、メールは

、tv@asahi.comへ。朝日新聞デジタル朝刊にも掲載します。匿名不可。二重投稿はご遠慮下さい。採用分には薄謝を差し上げます。

(声)遠藤さんの遺志を受け継ぐ 【名古屋】

“2012/12/19 大阪読売新聞 朝刊 29ページ 225文字

岡山市北区で昨年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金などを奪ったうえ、殺害したなどとして、強盗殺人罪などに問われた元同僚住田紘一被告(30)の裁判員裁判の公判前整理手続きが18日、終了。公判が2月5～14日に地裁(森岡孝介裁判長)で行われることが決まった。

地裁によると、起訴事実について争いはなく、争点は量刑だけという。初公判は5日午前9時55分に開廷、6、7日に被告人質問や証人尋問などがあり、8日に結審。判決は14日の予定。

はがき通信

“2013/01/25 大阪読売新聞 朝刊 27ページ 600文字

◆「被告憎い気持ち変わらない」

岡山市で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金などを奪った上、殺害したなどとして、強盗殺人罪などに問われている元同僚の住田紘一被告(30)の裁判員裁判が来月5日に地裁で始まるのを前に、加藤さんの遺族が24日、読売新聞など報道各社の取材に書面で応じた。加藤さんの父

親は「住田被告が憎いという気持ちに変わりはない。娘に世間並みの幸せを与えられなかったという後悔が続いている」と、心境を明かした。

父親らは、加藤さんについて「誰に対しても分け隔て無く接し、気遣いの出来る優しい子だった」と振り返り、「何も悪いことをしていない娘がどうしてこんな残酷な目に遭わされないといけないのか」と癒えぬ悲しみに触れた。

一方、逮捕から1年4か月となる中、父親は「何でこんなに裁判の開始まで待たされないといけないのか、無性に腹が立つ」とし、母親も「憤りを感じながら悶々(もんもん)とした日々を過ごしていた」と胸の内を明かした。

住田被告に対し、父親らは「求刑は死刑を望む。たとえ死刑になったところで、私たちの心が晴れることはない。情状酌量の余地も更生の可能性も考慮する必要がない」と厳しい処罰感情を示した。同時に、「娘の最後の瞬間を見ていたのは住田被告しかいないのだから、事実を正確に語ってほしい」とも訴えた。地裁によると、起訴事実について争いはないという。

派遣社員殺害被告 来年2月5日初公判 = 岡山

“2013/01/25 朝日新聞 朝刊 27ページ 900文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27) = 東区 = が殺害された事件の公判が始まるのを前に、両親ら遺族が24日、報道各社の質問に文書で回答を寄せた。「生きている間、心が晴れることはない」と心境を吐露している。強盗殺人などの罪で起訴された住田紘一被告(30)の裁判員裁判は2月5日、初公判を迎える。

両親らがつづった文書によると、2011年9月30日午前8時前、みささんはふだん通り家を出た。母親と「行ってきまーす」「行ってらっしゃい」と言葉を交わし、それが家族との最後の会話になったという。行方がわからないまま、殺人容疑で住田被告が逮捕されたのは10月6日。その間の思いを、父親は「きつとどこかで娘が助けを求めているに違いない、そう思うと焦りと無力感で胸が張り裂けそうになった」と記した。

事件後、母親は「遺体がなかったの顔も見てやることもできず、信じられない気持ち」だったという。父親は「娘に申し訳ない、世間並みの幸せを与えられなかったという後悔が今も続く」「もっと生きていたかっただろうに」と無念さをあらわにし、弟も「怒りや憎しみより悲しみが深い」と思いをつづった。

事件から約半年後の昨年4月18日、みささんは28歳を迎えるはずだった。家族は誕生日ケーキを用意し、墓に供えた。

みささんのことを「父の日、母の日にもプレゼントを決して忘れない気遣いのある優しい娘だった」と振り返る。位牌(いはい)は祖父母宅の仏壇に置き、毎夜、お経をあげる。休日には必ず墓を訪ね、「安らかに眠ってほしい」と伝えるという。

母親は「ある日突然に何が起きるか分からない世の中なんだ」と考えるようになったという。「ごく普通に生活することが、いかに幸せであるのか」

公判について、家族は「被告の声なんか聞きたくもない」としつつ、「娘のこの世での最後の瞬間を見ていたのですから、事実を正確に語って欲しい」と願った。

起訴状によると、住田被告は11年9月30日夕、元勤務先のIT関連会社の倉庫に連れ込み、強姦(ごうかん)して殺害。遺体は大阪市内で切断し、川などに遺棄したとされる。

(藤原学思)

【写真説明】

加藤みささん

派遣社員殺害 来月5日公判 遺族、癒えぬ悲しみ明かす = 岡山

“2013/02/02 毎日新聞 大阪朝刊 24ページ 1186文字

岡山市で11年、派遣社員、加藤みささん(当時27歳) = 同市 = が殺害された事件で、強盗殺人などの罪に問われた元同僚の住田紘一被告(30) = 大阪市住吉区 = の裁判員裁判の初公判が5日、岡山地裁で開かれる。初公判を前に加藤さんの両親ら遺族が手記を公表し、「私たちの心が晴れることはない」と心境を明らかにした。住田被告には「事実を正確に語ってほしい」と求めた。【五十嵐朋子】
加藤さんは長女。岡山市東区の自宅で両親らと生活し、同市北区のIT関連会社で派遣社員として働いていた。事件10日前の11年9月20日、この会社を退職した住田被告に声を掛けられ、事件に巻き込まれたとみられる。

両親らはA4判紙5枚に率直な気持ちをつづっている。父親は「娘に申し訳ない、世間並みの幸せを与えられなかったという後悔が今も続いています」。母親も「遺体がなかったので顔も見てやれず、信じられない気持ち。裁判の開始まで長く待たされ、憤りを感じながらもんもんとした日々を過ごしてきました」と打ち明けた。

父親は「苦しんでいる娘を救ってやれなかった悔しさ、無力さ、無念さが重なり、一言では言い表せない」とし、「お父さんとして恥ずかしくない戦いをしてみせるよ。必ず死刑を求刑してもらおう」と誓っている。加藤さんの人柄について、家族は「誰に対しても分け隔てなく接し、父の日、母の日にもプレゼントを決して忘れない気遣いのある優しい娘でした」と記した。

また、加藤さんは性的暴行の被害も受けたとされているが、両親は「実名で報じていただいた方が良いと思っています。いかに残酷で恐ろしい事件だったのか、一人でも多くの方に知ってほしいのです」と訴えた。

◇争点は量刑

住田被告は初公判で起訴内容を認めるとみられ、裁判の争点は量刑に絞られそうだ。弁護側は責任能力も争わない方針で、公判では情状面を中心に主張していくとみられる。

岡山地検によると、住田被告は当初、殺人罪で起訴されていたが、昨年3月に検察官に手紙を送り、「真相を全て話していなかった」と告白した。その後、「現金を奪い性的暴行をするつもりだった」と供述した。このため、強盗殺人と強盗強姦の罪に訴因変更された。

強盗殺人罪の法定刑は死刑か無期懲役。遺族側は厳刑を求めており、検察側の求刑や裁判員の判断が注目される。論告求刑は8日、判決は14日の予定。

< 起訴内容 = 強盗殺人、強盗強姦(ごうかん)、死体遺棄・損壊などの罪 >

11年9月30日、岡山市の元勤務先の会社敷地内の倉庫に加藤みささんを誘い込み、押し倒して現金約2万4000円入りバッグなどを強奪。さらに性的暴行を加えてナイフで刺殺し、大阪市内のガレージで遺体を切断した上、同市内の川などに捨てたとされる。

■写真説明 加藤みささん

「心晴れることない」公判前に遺族が心境 岡山・27歳女性殺害事件 / 岡山県

”2013/02/05 朝日新聞 朝刊 27ページ 1364文字

岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27) = 東区 = が殺害された事件の裁判員裁判が5日、岡山地裁(森岡孝介裁判長)で始まる。公判前整理手続きで起訴内容に争いが無いことを確認しており、争点は量刑となる見込みだ。

強盗強姦(ごうかん)、強盗殺人、死体損壊・遺棄、窃盗の罪で起訴されたのは、加藤さんの元同僚で大阪市住吉区の住田紘一被告(30)。

起訴状によると、被告は2011年9月30日夕、加藤さんのバッグを奪って強姦し、バタフライナイフで複数回刺して殺害。翌日から10月5日ごろまでに大阪市内で遺体を切断し、川などに遺棄したなどとされる。

地裁によると、裁判員候補者として84人に呼び出し状を送り、うち38人が事前に辞退。4日の選任手続きには36人が出席し、さらに5人が辞退したという。

●ポイントは動機認定

刑法では強盗殺人罪の刑を死刑か無期懲役と定めており、どちらかの判決が言い渡されるとみられる。

=====
死刑を選択する際には、最高裁が1983年の判決で示した「永山基準」が考慮される。(1)犯行の罪質
(2)動機(3)態様(4)被害者の数(5)遺族感情(6)社会的影響(7)犯人の年齢(8)前科
(9)犯行後の情状がそれにあたる。

東京高裁元判事で慶応義塾大学法科大学院の原田国男客員教授(刑事法)によると、最も重視されるのは被害者の数だという。

最高裁司法研修所は昨年、検察側が死刑求刑し、1980～2009年に判決が確定した殺人事件346件を分析した研究結果を発表。それによると、強盗殺人事件で被害者が3人以上なら100%、2人なら7割弱、1人の場合は3割弱で死刑が確定した。

今回の事件では被害者は1人。原田教授は「一般論として、被害者数の次に考慮されるのは犯行の動機や態様」という。

被告は当初、「元交際女性と会社関係者の男性の結婚を破綻(はたん)させたかった」と供述。だがその後、被害女性を強姦したことを明かし、殺人と窃盗1件が強盗強姦と強盗殺人の罪に変更された。態様は悪質だが、自ら犯行の詳細を語った点は被告に有利に働く可能性がある。原田教授は「被告の動機をどう認定するかがポイントになるだろう」とみる。

(藤原学思)

■事件の経緯(起訴状などをもとに作成)

2011年 9月30日 加藤みささんが殺害される

10月 6日 県警、住田被告を殺人容疑で逮捕

10月27日 岡山地検、被告を殺人と死体損壊・遺棄、窃盗3件の罪で起訴

12年 3月 被告、検察官に手紙を送付。「殺人の真相を全て話していない」

4月26日 地検、被告を窃盗2件の罪で追起訴

5月25日 地検、殺人と窃盗1件を強盗強姦、強盗殺人の罪に変更するよう地裁に申し立て

12月18日 公判前整理手続きが終了。争点が量刑に絞られる

13年 2月 4日 裁判員選任手続き

■裁判の日程

5日 9:55～17:00 罪状認否、冒頭陳述、証拠調べ、被告人質問

6日 9:55～16:55 被告人質問、証拠調べ、証人尋問

7日 9:55～16:55 証拠調べ、証人尋問、被告人質問、意見陳述

8日 9:55～12:20 論告、弁論、被告人最終陳述

14日 15:45 判決

(時間はいずれも予定)

岡山・元同僚女性殺害：起訴内容認める - - 地裁初公判

“2013/02/05 毎日新聞 大阪夕刊 10ページ 340文字

岡山市で11年9月、元同僚の女性を殺害し切断して捨てたなどとして、強盗殺人や死体遺棄・損壊などの罪に問われている大阪市住吉区の無職、住田紘一被告(30)に対する裁判員裁判の初公判が5日、岡山地裁(森岡孝介裁判長)であった。住田被告は「間違いありません」と起訴内容を認めた。

起訴内容では、11年9月30日、岡山市北区の元勤務先のIT関連会社敷地で派遣社員、加藤みささん(当時27歳)を倉庫に誘い込んで押し倒し、現金2万4000円入りバッグなどを強奪し、性的暴行を加えてナイフで刺殺▽遺体を大阪市内のガレージで切断し、同市内の川などに遺棄した--とされる。

岡山地検は同10月、殺人罪などで起訴したが、その後の捜査で強盗殺人罪などに訴因変更した。判決は14日の予定。【五十嵐朋子】

岡山・元同僚女性殺害：「せめて事実語って」 初公判を前に両親が手記

“2013/02/06 大阪読売新聞 朝刊 32ページ 935文字

◆被告 起訴事実認める

岡山市北区で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金などを奪って殺害し、遺体を切断して捨てたなどとして、強盗殺人、強盗強姦(ごうかん)罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)(大阪市住吉区)の裁判員裁判初公判が5日、地裁(森岡孝介裁判長)であり、住田被告は起訴事実を認めた。量刑が争点となる中、検察側は「被告が今後更生する可能性はない」と強調し、弁護側は「極刑の求刑が想定されるが、躊躇(ちゅうちよ)すべき事情はないのか考えて」と裁判員らに訴えた。判決は14日の予定。(池内亜希、藤原慎也)

住田被告は午前9時54分、白のワイシャツにノーネクタイ、黒のスーツ姿で傍聴人で埋まった法廷に姿を現した。細身で色は白く、髪は丸刈りで、淡々とした表情。検察側が起訴状などを読み上げ、森岡裁判長が認否を問うと、「間違いありません」としっかりとした口調で答えた後、席に着いた。

起訴状などによると、住田被告は11年9月30日夜、岡山市北区の会社倉庫で、加藤さんを殴って手錠をかけるなどし、現金などを奪って乱暴したうえ、バタフライナイフで胸などを刺して殺害。同10月上旬、遺体を切断し、大阪府の大和川などに遺棄したなどとされている。

冒頭陳述で、検察側は、住田被告が交際相手とうまくいかなかったことなどから、女性を乱暴して殺害しようと計画したと指摘。「顔見知りの中から好みの女性を3人選び、声をかけてついてきてくれたのが加藤さんだった」とし、「住田被告は『誰にも言わんから。助けて』と懇願する加藤さんを無視し、殺害した。殺害態様は残虐で、極めて悪質」と述べた。

一方、弁護側は「検察側の主張する動機には疑問が残る」とし、「住田被告の両親が更生に協力する」と訴えた。

午後からは、検察側による被告人質問も行われた。「なぜ乱暴後に殺害し、遺体を投棄しようと考えたか」と問われると、住田被告は「証拠隠滅のため」と説明。また、「取り調べでは、加藤さんや遺族へ謝罪の気持ちは全くないと言ったが」との質問に、「申し訳ないとは思っている。とても償い切れないことをした」と答え、傍聴した加藤さんの遺族は厳しい表情で、住田被告を見据えていた。

(27歳女性殺害事件裁判)きょうから 量刑判断が焦点に 起訴内容争わず / 岡山県

“2013/02/06 朝日新聞 朝刊 29ページ 1108文字

岡山市で2011年9月、派遣社員の加藤みささん(当時27) = 東区 = が殺害された事件の裁判員裁判が5日、岡山地裁(森岡孝介裁判長)で始まった。強盗強姦(ごうかん)、強盗殺人、死体損壊・遺棄、窃盗の罪に問われた大阪市住吉区の住田紘一被告(30)は「間違いありません」と述べ、起訴内容を認めた。

検察側は冒頭陳述で、動機が自己中心的▽態様が執拗(しつよう)、悪質▽遺族の処罰感情は峻烈(しゅんれつ)などと指摘した。最高裁判決で示された、死刑選択の際に考慮される「永山基準」の9項目のうちの6項目に触れ、「被告が今後改善更生する可能性はない」と述べた。

弁護側は冒頭陳述で「両親は更生に協力すると言っている。極刑がやむをえないのかについて考えていただきたい」と訴えた。

検察側の冒頭陳述によると、被告は09年11月、ある同僚女性と交際を始めたが、10年6月に破局。数カ月後、女性が別の男性と交際していることを知り、男性の殺害を計画した。10年12月ごろには別の女性と婚約したが、今度は同じマンションの住民女性の強姦、殺害を企てたという。

二つの計画は失敗し、11年7月ごろ、加藤さんを含む会社の同僚ら女性3人の強姦、殺人を計画。事件当日の9月30日朝、このうちの加藤さんとは別の女性に実際に声をかけたという。

その日夕、被告は加藤さんに「見てもらいたいものがある」と声をかけて倉庫に連れ込み、バッグを奪って強姦。加藤さんから「誰にも言わんから。助けて」と言われたが、バタフライナイフで胸や腹を10回以上刺して殺害した。

検察側の被告人質問もあり、被告はすべての計画を立てていたことを認めた。元交際女性が交際していた男性について「今も殺害したいと思っているか」と尋ねられ、「もちろんです」と答えた。一方で、加藤さんの遺族に対しては「償いきれないことをしたと思っています」と述べた。(藤原学思、長谷川健)

◆被告、落ち着き淡々

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

髪を短く刈った住田被告は午前9時50分すぎ、黒のスーツに白のワイシャツ姿で入廷。2人の弁護士に一礼して着席した。

岡山地裁で最も大きい法廷の傍聴席がすべて埋まった。地裁によると、105人が59席の一般傍聴券を求めたという。

裁判員は男性5人、女性1人。被告人質問の際は、少し前に身を乗り出す裁判員もいた。

被告は終始落ち着いた様子を見せた。被告人質問では、「着手」や「露見」、「反抗の抑圧」など、普段あまり使われない言葉を用いながら淡々と話した。ただ、元交際相手の話や加藤さんとの普段のやりとりについては「黙秘します」と答えた。

【写真説明】

前を見つめる住田紘一被告(右) = 岡山地裁、絵・神崎由梨

岡山・派遣社員殺害 「助けて」懇願を無視 裁判員裁判初公判 = 岡山

“2013/02/07 大阪読売新聞 朝刊 29ページ 561文字

◆被害者父「最低でも死刑に」

岡山市北区で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金などを奪って殺害したなどとして、強盗殺人罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)の裁判員裁判の被告人質問などが6日、地裁(森岡孝介裁判長)であった。住田被告は「殺人は手段としては是認される。目的達成のためなら殺すことも許される」と述べた。一方、加藤さんの父親は「心の底から悔いているようには思えない。最低でも死刑に」と訴えた。

住田被告は、検事から殺人についての考えを問われ、「他人が凶悪犯罪を犯すのは憎々しいが、自分はいい」などと述べた。殺人罪などで起訴された後に乱暴目的だったと認めたことについては「性犯罪者というレッテルを貼られたたくなく、最初は隠したが、裁判でうまく答えられないから告白した。反省していたからではない」などとした。

終始無表情だったが、「遺体は生まれた時より小さくなった。みさとは思えず、信じられなかった」という加藤さんの母親の供述調書が読み上げられた時は、口を覆って泣いた。

その後、証人尋問で加藤さんの父親が「父として一人前の幸せを与えてあげられなかった。命尽きるまで娘に謝り続けたい」と声を震わせ、「住田被告からは一度も謝罪がなく、許せる日が来るとは思えない」と厳しい口調で話した。

(27歳女性殺害事件裁判)初公判 別の殺害計画、検察指摘 / 岡山県

“2013/02/07 朝日新聞 朝刊 31ページ 704文字

強盗強姦(ごうかん)や強盗殺人などの罪に問われた住田紘一被告(30)の裁判員裁判の第2回公判が6日、岡山地裁であった。事件の動機について、住田被告は「姦淫(かんいん)目的だった」と述べた。この日も検察側の被告人質問が続いた。加藤みささん(当時27)を殺害し、遺体を切断、遺棄した理由については、強姦の証拠隠滅のため、とした。

被告は一昨年10月に起訴された時には「元交際女性と交際している男性との関係を破綻(はたん)させたかった」と供述していた。だがこの日は、強姦を目的に、持ち物を奪うことも事件以前から計画していたと明らかにした。起訴後になって検察側に真相を話した理由は「裁判でまともに受け答えができないと思った」などと答えた。

弁護側からの被告人質問では、「死刑で楽になりたいのか」と尋ねられ、「違います」と答えた。裁判員から「更生できますか」と聞かれ、「できるともできないとも、わかりません」と述べた。

●遺族「極刑を望む」

この日は加藤さんの父親が検察側証人として出廷した。裁判について「みさの弔い」と話した。公判に至るまで被告から一度も謝罪がないとして、「みさに謝ってほしい」と訴え、死刑を望むと述べた。

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

警察署で遺体の一部を持ち上げたときのことに話が及ぶと、「生まれてきたときよりも軽かった」と声を絞り出した。事件当初は「被告を許せるときがくるかもしれない」と考えていたが、強姦があったことが判明してからは、「生きてこの社会に出ることはまかりならない」と思うようになったという。

証拠調べで母親の調書も読み上げられた。

「みさには何の落ち度もありません。かわいそうでなりません」

(藤原学思)

岡山・派遣社員殺害 被告「殺人は許される」 裁判員裁判 = 岡山

“2013/02/08 大阪読売新聞 朝刊 29ページ 485文字

◆裁判員裁判

岡山市で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金などを奪って殺害するなどしたとして、強盗殺人罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)(大阪市住吉区)の裁判員裁判の被告人質問などが7日、地裁(森岡孝介裁判長)であった。住田被告は前日に「殺人は是認される」などと発言したが、「謝罪の意思はずっと持っていたが、自分に出来ることは死刑になる以外ないと思い、気持ちを偽った」と発言を翻した。

住田被告は、前日の証人尋問に立った加藤さんの父親の話を聞き、気持ちが変わったとし、「謝らせてください。申し訳ございませんでした」と、検察側に座る父親に頭を下げた。

一方、被害者参加制度に基づき、加藤さんの父親が住田被告に直接質問した。「謝罪とは何をどうすることなのか」と問われた住田被告は「罪を認め、遺族の傷が癒えるように何かをすること」と応答。父親は「裁判まで1年4か月かけて、これしか言えないのか」と怒りをにじませ、「罪の重さをまだ認識していなくて、謝罪できていない」と話す被告に「それを反省していないというのです」と厳しく指摘していた。

(27歳女性殺害事件裁判)第2回公判 被告、目的は強姦 / 岡山県

“2013/02/08 大阪読売新聞 夕刊 14ページ 317文字

岡山市で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金を奪って殺害し、遺体を切断して捨てたとして、強盗殺人罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)(大阪市住吉区)の裁判員裁判の論告求刑公判が8日、岡山地裁(森岡孝介裁判長)であり、検察側は「犯行は執拗(しつよう)、残虐で、更生の可能性はない。被害者が1人であることも酌量すべき事情とならない」として死刑を求刑した。

起訴状などによると、住田被告は11年9月30日夜、加藤さんを連れ込んだ岡山市北区の倉庫で殴って手錠をかけ、現金などを奪って乱暴したうえ、バタフライナイフで胸などを刺して殺害。同10月上旬、遺体を切断し、大阪府の大和川などに遺棄したなどとされる。

派遣社員殺害 殺人是認「気持ち偽った」 被告 前日発言翻す = 岡山

“2013/02/08 朝日新聞 朝刊 29ページ 887文字

強盗強姦(ごうかん)、強盗殺人などの罪に問われた住田紘一被告(30)の裁判員裁判の第3回公判が7日、岡山地裁であった。住田被告は「僕は間違っていました」と述べ、これまでの供述を大きく変えた = 表。

この日の弁護側の被告人質問で、被告は被害者の加藤みささん(当時27)の父親に、「本当に申し訳ございませんでした」と、8秒間頭を下げた。「ごめんなさい、みささん」と涙を流す場面もあった。初公判までは遺族に謝罪していなかったという。

事件を思いとどまらなかった理由については「婚約者との破局や元交際相手の結婚で、人生もどうでもいいような気持ちになっていた」と話した。謝罪しなかった理由は「とにかく悪く思われて死刑になるため」と述べた。一方で検察官から「死刑になりたくない気持ちは」と問われると、「あります」と答えた。

前日の法廷で「謝ってほしい」という加藤さんの父親の言葉を聞き、供述を変えたと説明した。裁判員は「何を信じていいかわからない。真実を言わなきゃいけないですよ」と話した。加藤さんの父親は「反省がない」と顔を紅潮させ、被告はうなだれた。

被告人質問の前には、被告の両親が弁護側の証人として出廷。父親は逮捕まで6日間の被告について「人間の目じゃなかった。精神的におかしかった」と証言し、「息子には十分反省し、愚かなことをしたと気付いてほしい」と述べた。母親は「私の知ってる彼に戻ってほしい」と話した。(藤原学思)

■被告の供述の変遷

<被害者、遺族に対して>

- (1) 申し訳ないことをした
- (2) 謝罪の思いは裁判のときだけ
- (3) 逮捕時からずっと、本当に申し訳ないことをしたと思っている

<被害者がかわいそうという気持ちはないのか>

- (2) 持たない
- (3) そんなわけない。どれだけ無念か。かわいそうと思う

<殺人について>

- (2) 目的達成のためなら是認される
- (3) ばれなければいい、ということはない

<犯罪について>

- (2) 自分だけは特別。かまわない
 - (3) 悪いことをしてのうのうと社会に出てくるなんて考えない。自分も例外ではない
- (カッコ内数字は何回目の公判かを示す)

岡山・元同僚女性殺害：地検、死刑求刑 「被害者1人でも悪質」

“2013/02/08 毎日新聞 大阪夕刊 9ページ 698文字

岡山市で11年9月、元同僚の女性を殺害し遺体を切断して捨てたなどとして強盗殺人、強盗強姦(ごうかん)などの罪に問われている大阪市住吉区の無職、住田紘一被告(30)に対する裁判員裁判の論告求刑公判が8日、岡山地裁(森岡孝介裁判長)であった。検察側は「計画的な犯行で残虐。更生可能性はなく、遺族の処罰感情はしゅん烈だ」として死刑を求刑した。

検察側は論告で、最高裁が判例で死刑判断の基準として被害者数などを挙げた「永山基準」(83年)に言及し、「被害者1人で前科がないとしても、事件は極めて悪質で死刑を選択するほかない」と指摘した。

5日に始まった裁判員裁判で、住田被告は、元婚約者との交際に満足できずに「欲求不満を満たすために元同僚女性の強姦を計画した」と告白。被害者の加藤みささん(当時27歳)はその対象に選んだ好みの女性3人のうちの1人だったと説明した。

住田被告は当初、「かわいそうと思う気持ちはない」などと話していたが7日の被告人質問で突然、「本当はずっと謝罪したかった。死刑になりたかった」と態度を一変。「ごめんなさい」と涙を流す場面もあった。

遺族は被害者参加制度を利用し「最低でも死刑を」と訴えた。加藤さんの父親はこの日、証人尋問で「私たち家族をどこまで愚弄(ぐろう)する気か。昨日、被告が見せた涙は、悔いた涙とは思えない」と話した。起訴状などによると住田被告は11年9月30日、岡山市北区の元勤務先の会社敷地内で、派遣社員の加藤さんを倉庫に誘いこみ、現金2万4000円入りバッグなどを強奪して性的暴行を加え、刺殺。遺体を大阪市のガレージで切断し、遺棄したとされる。【五十嵐朋子】

元同僚男に死刑求刑 岡山 派遣社員殺害 遺体切断

“2013/02/09 大阪読売新聞 朝刊 27ページ 729文字

◆被告「最も重い罰受ける」

岡山市で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん(当時27歳)から現金などを奪って殺害したなどとして、強盗殺人罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)の裁判員裁判で、検察側が死刑を求刑した8日、住田被告は「今の私に出来るのは、最も重い罰を受けることしかない。本当に申し訳ございませんでした」と述べた。一方、弁護側は無期懲役を求めており、裁判員は難しい判断を迫られる。判決は14日の予定。

約1時間にわたる検察側の論告を、住田被告は前を見据えて聞いた。検察側は、1983年に最高裁が示した死刑の選択基準(永山基準)を基に求刑理由を説明。「あまりに非人間的。これほどの重大犯罪を犯した被告には、死刑を選択するほかない」とし、公判中に殺人を肯定する発言などを翻したことについては「刑を軽くするため、うそをついた可能性がある。いまだに無反省だ」と厳しく指摘した。

弁護側は最終弁論で、住田被告がいったん殺人罪などで起訴された後、乱暴目的だったことを明かしたことに触れ、「被告は死を覚悟して告白した。自首にも匹敵する」とし、発言の変化については「命をもって償うという反省の現れ」と訴えた。そして「少しでも躊躇(ちゅうちょ)する事情がある場合、極刑は許されない」と死刑回避を求めた。

求刑に先立ち、加藤さんの母親らが意見陳述を行い、母親は「住田被告はうその供述をするなど、私たちをどこまで苦しめるのか。自分の死をもって償いなさい」と声を絞り出した。

求刑について、渡辺修・甲南大法科大学院教授(刑事訴訟法)は「市民の良識で犯罪の悪質性を考慮すれば相当。強姦が被告の自白によって判明したことを考えても、死刑求刑はやむを得ない」とした。

(27歳女性殺害事件裁判)第3回公判 被告「間違っていた」 供述を変更 / 岡山県

“2013/02/09 朝日新聞 朝刊 27ページ 910文字

「死刑を選択するほかない」。強盗強姦(ごうかん)、強盗殺人、死体損壊・遺棄などの罪に問われた住田紘一被告(30)の裁判員裁判の第4回公判で、検察側は8日、死刑を求刑した。弁護側は更生の可能性を指摘し、死刑の回避を訴えた。

検察側は論告で「強姦は性的欲求、殺人や死体損壊は完全犯罪を企図した」と動機の身勝手さを指摘。加藤みささん(当時27)を含む3人の強姦、殺害を綿密に計画していたとして「偶発的、衝動的な要素が全くない」と述べた。

遺体を切断して遺棄したり、奪ったバッグを投棄したりして証拠隠滅を図ったことは「大罪を悔やむ心が全くくみ取れない」と評価した。被害者参加制度を利用して意見を述べた加藤さんの父親も死刑を求めた。

一方、弁護側は「死刑は生命を永遠に奪い取る。少しでもためらう事情があれば許されない」と訴えた。被告が事件の数日前、婚約を破棄された女性から「時間の無駄だった」と言われたことなどに言及し、「背景には自暴自棄に陥る過程があった」と述べた。事件の計画も全般的に稚拙だとして、「綿密とまで言えるのか」と疑問を投げかけた。

論告の前に意見陳述をした加藤さんの母親は「最低な悪事をした被告に最高の刑を。それが最愛の娘を奪われた母としての願いです」と声を震わせた。弟は「被告は極刑になり、死を受け入れてほしい」と述べた。被告は死刑求刑にも表情を変えなかった。最終陳述で「私に罪を償うことはできません。償いとはみささんが生きて帰ってくるからだと述べ、結審後は遺族に向かって深々と頭を下げた。

(藤原学思、長谷川健)

●論告要旨 検察側

動機に同情できる事情は認められない。計画され尽くした悪質極まりない犯行で、態様も執拗(しつよう)で残虐。遺体を切断し、死者に対する畏敬(いけい)の念もない。無反省で、社会復帰すれば、また人の命を奪うような罪を犯すことは必至だ。

●弁論要旨 弁護側

婚約の破談など自暴自棄に陥る経緯があり、同情の余地がある。被告が強盗、強姦目的を告白したのは死をもって償うという反省の表れで、これで真相が明らかになった。謝罪は遅きに失したが、被害者のことを考え日記をつけている。

=====
派遣社員強殺 死刑求刑 「非人間的、いまだに無反省」 検察側 = 岡山

“2013/02/09 朝日新聞 朝刊 36ページ 244文字

岡山市で2011年9月、派遣社員の女性を殺害したなどとして強盗殺人と強盗強姦(ごうかん)などの罪に問われた大阪市住吉区の無職住田紘一被告(30)の裁判員裁判の論告求刑公判が8日、岡山地裁であった。検察側は「命乞いする女性を無視して殺害した、冷酷非情で非人間的な犯行」と死刑を求刑した。判決は14日。

検察側は論告で、同僚だった加藤みささん(当時27)を強姦した上でバタフライナイフで10回以上刺したと指摘。「性欲を満たすという動機は身勝手極まりない」と述べた。弁護側は死刑回避を求めた。

“(27歳女性殺害事件裁判)第4回公判 死刑求刑「完全犯罪を企図」 / 岡山県

“2013/02/14 朝日新聞 朝刊 31ページ 1616文字

岡山市北区で2011年9月、派遣社員の加藤みささん(当時27)を殺害したなどとして強盗強姦(ごうかん)、強盗殺人、死体損壊・遺棄、窃盗の罪に問われた住田紘一被告(30) = 大阪市住吉区 = の裁判員裁判で、岡山地裁(森岡孝介裁判長)は14日、判決を言い渡す。検察側は死刑を求刑する一方、弁護側は死刑の回避を求めている。

争点は量刑に絞られている。刑法では強盗殺人罪の刑を死刑か無期懲役と定めており、検察側は論告で、弁護側も最終弁論で、それぞれ「永山基準」=キーワード=に言及した=表。

検察側は、永山判決以降に最高裁で死刑が確定した被害者1人の事件のまとめを証拠として提出。計21人の被告のうち、罪名に強盗殺人が含まれるのは11人、死体遺棄は10人、強姦などわいせつ行為は5人。16人は「反省の態度がある」と認定されていたという。

弁護側は、最高裁司法研修所の研究報告書をもとにした資料を提出。報告書によると、検察側が死刑を求刑し、1980〜2009年に判決が確定した殺人事件346件を分析すると、強盗殺人罪で被害者が1人の場合、死刑を求刑されたのは52人で14人(27%)の死刑が確定した。ただ14人中5人は無期刑の仮釈放中で、1人は実質的に複数の強盗殺人だったという。

永山基準は計画性に触れていないが、報告書によると、死刑が確定した残り8人は、被害者の殺害を計画、決意していたという。報告書をまとめた井田良(まこと)・慶応大教授(刑法)は「計画性の有無は、行為の危険性の高さや犯意の強固さを示す事情。量刑上、重要な意味がある」と話す。

今回の事件では、検察側が「綿密な計画を立て入念な準備をしていた」と主張。弁護側は「荒唐無稽で全般的に稚拙な計画」と訴え、その程度を争っている。

元最高検検事の土本武司・筑波大名誉教授(刑法)は「女性や子どもなど、抵抗する力が弱い被害者であることも量刑判断の要素の一つ。反省や謝罪の念がどれだけ認定されるかがポイントだろう」と話した。(藤原学思)

<永山基準> 最高裁が1983年、永山則夫元死刑囚の上告審判決(永山判決)で示した死刑選択の際に考慮すべき9項目。判決では、罪責が誠に重大で、極刑がやむをえないと認められる場合、死刑の選択も許される、としている。

■検察側と弁護側の主張

【永山基準の9項目】(1)罪質

【検察側】被害者が1人で、これ以上悪質、重大なものはほぼ想定できない

【弁護側】(言及せず)

*

【永山基準の9項目】(2)動機

【検察側】自己中心的で身勝手極まりなく、同情できる事情はない

【弁護側】背景には自暴自棄に陥る経過が存在した

*

【永山基準の9項目】(3)態様(殺害方法の残虐性など)

【検察側】冷酷非情で非人間的

=====

【弁護側】（言及せず）

*
【永山基準の9項目】（4）結果の重大性（被害者数）

【検察側】かけがえのない命が失われた

【弁護側】被害者が1人で死刑求刑がなされた場合、死刑判決に至るのは少数

*
【永山基準の9項目】（5）遺族の被害感情

【検察側】死刑に処せられることを心底願っている

【弁護側】（言及せず）

*
【永山基準の9項目】（6）社会的影響

【検察側】一般社会に恐怖と戦慄（せんりつ）を蔓延（まんえん）させた

【弁護側】（言及せず）

*
【永山基準の9項目】（7）犯人の年齢

【検察側】社会人として分別をつけているのが当然の年齢

【弁護側】比較的若年であり、無期刑でも極めて長期間服役することになる

*
【永山基準の9項目】（8）前科

【検察側】ないが、特に酌量すべき事情とは言えない

【弁護側】ない。立ち直りのチャンスを得たことがあるかは極めて重要

*
【永山基準の9項目】（9）犯行後の情状

【検察側】いまだに無反省。更生する可能性もない

【弁護側】真相を告白した。謝罪の意思も表明し、更生の可能性はある

岡山の強盗殺人、検察が死刑求刑 【大阪】

“2013/02/15 大阪読売新聞 朝刊 27ページ 1015文字

◆裁判員 変わる証言「何が本当か」

岡山市で2011年9月、同市の派遣社員加藤みささん（当時27歳）から現金を奪って殺害し、遺体を切断して遺棄したなどとして強盗殺人、強盗強姦（ごうかん）罪などに問われた元同僚の住田紘一被告（30）に14日、死刑判決が言い渡された。判決後、裁判員らは記者会見で、「死刑」という厳しい判断を導くにあたり、迷いとともに深い苦悩があったことを明かした。

◆父「夢でも会いたい」

午後3時43分、白色シャツ、黒色スーツで入廷した住田被告は、結審した時より、さらに髪を短く刈り込んでいた。森岡孝介裁判長が「主文は後回しにしますので、席について下さい」と告げると、静かに従った。

認定された事実が述べられ、量刑の理由が説明された後、森岡裁判長が「死刑に処する」と述べると、住田被告は少し頭を下げた。被害者参加制度で法廷に入った加藤さんの父親、裕司さん（60）は目を閉じたままだった。

判決終了後、弁護側から控訴を伝えられた住田被告は「わかりました」と応じたという。弁護側は「被告人の意見が少し変わってしまったところが真摯（しんし）な反省と見られなかったのだと思う。市民感覚が反映された厳しい判決だった」と話した。

■ □
公判では、住田被告が「殺人を是認する」などと発言。その後、謝罪の言葉を述べるなど、態度を一変させた。裁判員と補充裁判員は判決後の記者会見で、こうした住田被告の態度にどう判断すべきか、迷ったことを明らかにした。

岡山市の40歳代の男性会社員は「証言がころころ変わると、何が本当か、分からなくなった」と述べた。

=====
また、補充裁判員を務めた30歳代の男性は「謝罪(の言葉)に、疑いの気持ちと、信じたい気持ちが交じり、難しい判断を迫られた」と振り返った。死刑を裁判員裁判で審理することについて男性会社員は「負担感があるので、やりたくない人はいると思う。しかし重大事件ほど、国民の意見が反映されるように維持していくべき」とした。

□ ■
加藤さんの遺族は毎晩、位牌(いはい)の前で手を合わせているといい、裕司さんは「(みささんは)宝物のような守らないといけない大事な存在だった。もっと一緒に映画に行ったり、食事に行ったりしたかったし、自分の娘だと自慢したかった。会えるものなら夢でも会いたい」と話した。

写真 = 死刑判決後、記者会見で感想を語る裕司さん(岡山市北区で) = 代表撮影

元同僚女性強殺に死刑 岡山地裁判決 被害者1人では異例

“2013/02/15 大阪読売新聞 朝刊 35ページ 1162文字

岡山市で2011年、派遣社員加藤みささん(当時27歳)を殺害、遺体を切断して遺棄したなどとして強盗殺人や死体遺棄罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)の裁判員裁判の判決で、岡山地裁(森岡孝介裁判長)は14日、求刑通り死刑を言い渡した。

被害者が1人の事件での死刑判決は異例。住田被告に前科はなかったが、森岡裁判長は「強固な殺意に基づく冷酷かつ残虐な犯行。反省や謝罪は不十分で、更生可能性は高いとはいえない。死刑の選択をするほかない」と述べた。弁護側は即日控訴した。

判決によると、住田被告は同年9月30日、岡山市北区の倉庫に加藤さんを連れ込み、所持金を奪って性的暴行をしたうえ、ナイフで胸などを10回以上刺して殺害。翌10月上旬、実家のある大阪市内で遺体を切断し、川などに遺棄した。

判決で森岡裁判長は、性的な欲求不満を解消するための計画性の高い犯行だとし、「当初から殺害と遺体の処理まで考えていた点は強く非難されるべきだ」と指摘した。

◆裁判員 残虐性を判断

死刑選択を巡っては、1983年の最高裁判決が被害者数、前科、殺害方法など9項目の基準(永山基準)を示しており、裁判員裁判で、殺害された被害者が1人の場合に死刑判決が言い渡されるのは3件目、前科がない被告には初めてとみられる。

千葉大生強盗殺人事件など過去2件は、いずれも被告が重大事件で服役し、出所後間もない犯行だった点を重視。一方、今回は計画性や残虐性など犯行の悪質さがポイントになった。

判決後、裁判員を務めた人たちが岡山地裁内で記者会見。住田被告に前科はなかったが、40歳代男性は「(プロの裁判官による)永山基準に基づいた数々の判例が積み重ねられてきたが、市民の意見、意思を反映した判決があってもいいのではないか」と話した。

補充裁判員だった30歳代男性は「精神的な負担は本当に大きく、家に帰っても、自分が裁いていいのかすごく悩んだ」と死刑判断の重さをにじませた。

渡辺修・甲南大法科大学院教授(刑事訴訟法)は「性的暴行があったことなどを踏まえた判決。裁判員らは、被害者数にこだわらず、市民良識に沿って事件の重みにふさわしい判断をした。今後の一つの指標になるだろう」と指摘した。

◆「本心で謝罪を」 被害者の父

加藤みささんの父裕司さん(60)は判決傍聴後、岡山市内で会見し、「極めて妥当な判決。ようやく娘に報告が出来る」と話した。

裕司さんは妻、長男と計5日間の裁判をすべて傍聴し、被害者参加制度に基づき、住田被告に直接質問もした。「刑が確定したら、(住田被告に)会いに行こうと思っている。反省の気持ちを芽生えさせ、本心からみさに謝ってもらいたい。そのためにも控訴を取り下げしてほしい」と求めた。

図 = 被害者1人で死刑を選択した裁判員裁判の判決

=====

(27歳女性殺害事件裁判) 死刑か無期懲役か きょう判決、計画性どう判断 / 岡山県

“2013/02/15 朝日新聞 朝刊 21ページ 1058文字

裁判員らが出した答えは極刑だった。加藤みささん(当時27)を殺害したなどとして強盗殺人や強盗強姦(ごうかん)などの罪に問われた住田紘一被告(30)に14日、岡山地裁は死刑を言い渡した。被告や弁護側、検察側や遺族はどう受け止めたのか。

主文が後回しにされ、森岡孝介裁判長が判決文を朗読した15分間、黒のスーツ姿の住田被告は検察側や傍聴席に目をやりながらも、背筋を伸ばし、落ち着いた様子だった。

「死刑に処する」。そう言い渡されると小さくうなずいた。終結後は検察官席と遺族に頭を下げ、しっかりとした足取りで法廷を後にした。

杉山雄一弁護士によると、「弁護人の権限で即日控訴しました」と告げると、淡々と「わかりました」と述べたという。

死刑回避を求めている杉山弁護士は「意見が受け入れられず残念。真相を告白したことがあまり評価されず、市民感覚が色濃く反映された」と話した。

岡山地検の山下裕之次席検事は「被告に死刑を科すという、極めて重い課題に正面から取り組んだ裁判員に、深く敬意を表したい」とコメントを発表した。(藤原学思)

◆父「やっと娘に報告」

加藤さんの父、裕司(ひろし)さん(60)は被害者参加制度で公判を聞き続けた。この日は目をつぶり、じっと判決に耳を傾けた。

「極めて妥当な判決。やっと娘に報告できる」。判決後の会見でそう話した。「長かったが、一区切りついた」

ただ「達成感はない」。裁判での一番の望みは「被告に心から謝ってもらうこと」だったからだ。

住田被告の弁護側は即日控訴した。「控訴を取り下げて死刑を受け入れてこそ、反省が始まると思う」と話した。(長谷川健)

◆裁判員「責任感じた」

判決後、裁判員6人のうち男女4人と補充裁判員の男性1人が記者会見。「終わって楽になったと思えるような思えないような。いろいろ考えてしまう」「非常に重たい案件だった」などと顔をこわばらせた。

裁判長が「死刑」と言った時には全員が被告を見つめた。40代の男性は「目を見ていたかった。自分の顔を覚えていてくれても結構だと。(それくらいの)責任を感じた」と話した。

多くの裁判員が印象に残った場面として、反省の態度を示していなかった被告が「僕は間違っていました」と供述を変えた第3回公判を挙げた。会社員の男性(38)は「『どうして、なにそれ』という感じが残っている」と話した。(吉村治彦)

【写真説明】

裁判員らと住田紘一被告 = 岡山地裁、絵・神崎由梨

判決を受けて記者会見する加藤みささんの父裕司さん = 岡山市北区、代表撮影

岡山・元同僚女性殺害：強姦強殺に死刑 「被害1人でも重大」 - - 地裁判決

“2013/02/15 朝日新聞 朝刊 35ページ 1045文字

岡山市で派遣社員の女性を殺害したなどとして、強盗殺人と強盗強姦(ごうかん)、死体遺棄などの罪に問われた無職住田(すみだ)紘一被告(30) = 大阪市住吉区 = の裁判員裁判の判決が14日、岡山地裁であった。森岡孝介裁判長は「欲求不満を解消し、証拠隠滅を図るといふ動機は極めて自己中心的。酌むべき事情はない」として、求刑通り死刑を言い渡した。弁護側は即日控訴した。

裁判員裁判での死刑判決は16人目。うち被害者が1人の殺人事件での死刑判決は3例目とみられる。

判決によると、住田被告は交際相手との関係がうまくいかず、同僚女性3人を対象に、強姦や殺害などを計画。バタフライナイフなどを準備したうえ、2011年9月30日夕、岡山市北区の元勤務先近くで待ち伏せた。退社してきた加藤みささん(当時27)を見かけて倉庫に押し込み、顔などを何度も殴って現金約2

万4千円が入ったバッグを奪い、強姦。ナイフで10回以上刺し、殺害した。また翌日から10月5日ごろまでに大阪市内で遺体を切断し、川などに遺棄した。

被告は起訴内容を争わず、公判中に遺族に謝罪。弁護側は「両親が更生への協力を誓っている」として死刑回避を求めている。

森岡裁判長は「犯行は冷酷で残虐。被害者は必死の命乞いもむなしく、無残に殺害された。無念さは察するに余りある」と指摘。さらに「被害者は1人だが、性的被害も伴って結果は重大だ。公判中の謝罪も一面的で、自己洞察を深めた内省の弁が聞かれなかった」と述べ、更生の可能性は高くないと結論づけた。

●被害1人でも悪質性重視

《解説》殺害されたのが1人でも死刑を選んだ14日の岡山地裁判決は、死刑適用の指標である「永山基準」に照らしつつも、結果の重大性を被害者の数のみで判断しない、市民感覚を反映した結論と言える。

基準は最高裁が1983年の判決で示した。犯罪の性質や動機など9項目を考慮し、「やむをえないと認められる場合」にのみ死刑選択が許されるとしている。中でも重視されてきたのが、被害者の数だった。

しかし地裁判決は「被害者は1人だが、性的被害も伴っており、結果は重大で死刑を選択するほかない」とした。人格の尊厳をふみにじる性犯罪の悪質性を重視した様子うかがえる。

裁判員を務めた40代男性も閉廷後の会見で「判決に一般市民の、今の時代の流れに沿った意見が入ってもいいと思う」と話した。ただ、今回の事件は残虐性が際立つ。今後の市民の判断傾向が、この1件で占えるとは言い難いのも事実だ。

(藤原学思)

1人殺害に死刑判決 岡山地裁「性的被害も重大」

“2013/02/15 朝日新聞 朝刊 39ページ 446文字

岡山市で派遣社員の女性を殺害したなどとして、強盗殺人と強盗強姦(ごうかん)、死体遺棄などの罪に問われた無職住田(すみだ)紘一被告(30)=大阪市住吉区=の裁判員裁判の判決が14日、岡山地裁であった。森岡孝介裁判長は「欲求不満を解消し、証拠隠滅を図るという動機は極めて自己中心的」として、求刑通り死刑を言い渡した。弁護側は即日控訴した。

裁判員裁判での死刑判決は16人目。うち被害者が1人の殺人事件での死刑判決は3例目とみられる。

判決によると、住田被告は交際相手とうまくいかず、同僚女性3人を対象に、強姦や殺害などを計画。2011年9月30日夕、岡山市北区の元勤務先近くで待ち伏せた。退社してきた加藤みささん(当時27)を見かけて倉庫に押し込み、顔などを何度も殴って現金約2万4千円が入ったバッグを奪い、強姦。ナイフで10回以上刺し、殺害した。また翌日から10月5日ごろまでに大阪市内で遺体を切断し、川などに遺棄した。森岡裁判長は「被害者は1人だが、性的被害も伴って結果は重大だ」と述べた。

(27歳女性殺害事件裁判)死刑判決に被告淡々 弁護人の権限で即日控訴 / 岡山県

“2013/02/15 東京読売新聞 朝刊 39ページ 426文字

岡山市で2011年、派遣社員加藤みささん(当時27歳)を殺害、遺体を切断して遺棄したなどとして強盗殺人や死体遺棄罪などに問われた元同僚の住田紘一被告(30)の裁判員裁判で、岡山地裁は14日、求刑通り死刑判決を言い渡した。裁判員裁判で、殺害された被害者が1人の場合に死刑判決が言い渡されるのは3例目、前科がない被告には初めてとみられる。

森岡孝介裁判長は「強固な殺意に基づく冷酷かつ残虐な犯行。反省や謝罪は不十分で、更生可能性は高いとはいえない。死刑の選択をするほかない」と述べた。弁護側は控訴した。判決によると、住田被告は11年9月30日、岡山市北区の倉庫に加藤さんを連れ込み、所持金を奪って性的暴行をしたうえ、ナイフで胸などを10回以上刺して殺害。10月上旬、大阪市内で遺体を切断し、川などに遺棄した。

森岡裁判長は、性的欲求不満を解消するための計画性の高い犯行だとし、「当初から殺害と遺体の処理まで考えていた点は強く非難されるべきだ」と指摘した。

岡山・派遣社員強殺 死刑判決 迷いと苦悩 変わる証言「何が本当か」=岡山

“2013/02/15 毎日新聞 大阪朝刊 1ページ 746文字

岡山市で11年9月、元同僚の女性を殺害したとして、強盗殺人、強盗強姦(ごうかん)などの罪に問われた大阪市住吉区、無職、住田紘一被告(30)の裁判員裁判で、岡山地裁は14日、求刑通り死刑を言い渡した。森岡孝介裁判長は「被害者は1人だが、性的被害も伴っており、結果は重大だ。死刑を選択するほかはない」と述べた。弁護側は即日控訴した。(27面に関連記事)

最高検によると、裁判員裁判での死刑判決は16件目で、被害者1人のケースでは3件目となる。被害者1人で、前科のない被告への死刑は裁判員裁判では初めてとみられる。

判決によると、住田被告は11年9月30日、岡山市の元勤務先の会社倉庫で、派遣社員の加藤みささん(当時27歳)から現金2万4000円などが入ったバッグを強奪したうえ、性的暴行をして刺殺。遺体を大阪市内で切断し、川などに遺棄した。

強盗殺人罪の法定刑は死刑か無期で、検察側と遺族が求めた死刑を適用するかどうか最大争点となった。

森岡裁判長は死刑を選んだ理由について、「性的暴行をするなど、非常に強固な殺意に基づく冷酷かつ残虐なものだ」と指摘。そのうえで、「被告の反省や謝罪は不十分というほかはなく、更生の可能性は高いとは言えない」とした。また、住田被告に前科前歴がないことや起訴後に検察官に性的暴行などを告白した点に触れ、「死刑を回避するほどの特に酌量すべき事情とまでは言えない」と判断した。

住田被告は公判で起訴内容を認めて遺族に謝罪する一方、当初は「被害者や遺族がかわいそうとは思わない」などと供述していた。

裁判員裁判で被害者が1人で死刑としたのは、東京・南青山の強盗殺人事件の東京地裁判決(11年)、千葉県松戸市の女子大生殺害放火事件の千葉地裁判決(同年)。**【五十嵐朋子】**

岡山・元同僚女性殺害：死刑判決 被告、無表情に一礼 遺族「心軽くない」

“2013/02/15 毎日新聞 大阪朝刊 27ページ 661文字

死刑判決でも娘は帰ってこない。元同僚殺害事件で住田紘一被告(30)に死刑を言い渡した14日の岡山地裁判決。望んだ通りの量刑だったが、遺族の表情は硬いままだった。

住田被告はこの日、黒いスーツに白いワイシャツ姿で出廷した。裁判長が主文を後回しにした後、着席して背筋を伸ばしたまま姿勢を崩さなかった。最後に「被告人を死刑に処す」と言い渡されても、住田被告は無表情で裁判長を見つめたままだった。その後、遺族に向かって一礼した。

殺害された加藤みささんの父裕司さん(60)が判決後、岡山市内で記者会見し、「娘を救ってやれなかったのは事実。死刑判決でも心は軽くない」と複雑な胸の内を明かした。

裕司さんは被害者参加制度を利用して公判に参加し、法廷で検察官の近くに座って住田被告と向き合った。意見陳述では「最低でも死刑を」と訴えた。

死刑判決について裕司さんは「(裁判員が)良識な判断を示してくれたと思う。やっと娘の墓前に報告ができる」と語った。ただ、娘を失った悲しみは癒えておらず、「特段うれしい気持ちはない」とも漏らした。住田被告については「本当の意味で反省していないから、今でも許していない」と述べた。

そして、裕司さんは最も望むこととして「娘にもう一度会いたい。夢に出てきてほしい。一緒に映画を見たり、食事をしたかった。知り合いに『うちの娘です』と自慢したかった」と語った。**【五十嵐朋子、小園長治、原田悠自】**

■写真説明 加藤みささん

■写真説明 死刑判決を受け、「娘に報告したい」と語る加藤裕司さん=岡山市内で14日、代表撮影

1人強殺 男に死刑判決 岡山地裁「残虐な犯行、反省不十分」

“2013/02/15 毎日新聞 朝刊 24ページ 1245文字

岡山市で11年9月、元同僚の女性を殺害したとして、強盗殺人、強盗強姦(ごうかん)などの罪に問われた大阪市住吉区、無職、住田紘一被告(30)の裁判員裁判で、岡山地裁は14日、求刑通り死刑を言い渡した。森岡孝介裁判長は「被害者は1人だが、性的被害も伴っており、結果は重大だ。死刑を選択するほかはない」と述べた。弁護側は即日控訴した。【五十嵐朋子】

最高検によると、裁判員裁判での死刑判決は16件目で、被害者1人のケースでは3件目となる。

被害者1人で、前科のない被告への死刑は裁判員裁判では初めてとみられる。

判決によると、住田被告は11年9月30日、岡山市の元勤務先の会社倉庫で、派遣社員の加藤みささん(当時27歳)から現金2万4000円などが入ったバッグを強奪したうえ、性的暴行をして刺殺。遺体を大阪市内で切断し、川などに遺棄した。

強盗殺人罪の法定刑は死刑か無期で、検察側と遺族が求めた死刑を適用するかどうか最大の争点となった。

森岡裁判長は死刑を選んだ理由について、「性的暴行をするなど、非常に強固な殺意に基づく冷酷かつ残虐なものだ」と指摘。そのうえで、「被告の反省や謝罪は不十分というほかはなく、更生の可能性は高いとは言えない」とした。

また、住田被告に前科前歴がないことや起訴後に検察官に性的暴行などを告白した点に触れ、「事案の解明に役立つなど有利な事情だが、死刑を回避するほどの特に酌量すべき事情とまでは言えない」と判断した。住田被告は公判で起訴内容を認めて遺族に謝罪する一方、当初は「被害者や遺族がかわいそうとは思わない」などと供述していた。

■解説

◇裁判員、残虐性や遺族感情重視

裁判員が出した答えは被害者の数だけで死刑を回避すべきではないという、厳罰化の流れをくんだものといえる。

死刑を選ぶ際は、最高裁が1983年の判決で示した「永山基準」が考慮されてきた。(1)罪質(2)動機(3)態様(4)被害者の数—など9項目を検討対象にしたものだ。特に被害者の数が重視され、被害者が1人の場合、やむを得ない事情がない限り、裁判所は死刑を避けることが多かった。

ただ、最近の厳罰化で、犯行態様などによっては、被害者が1人でも死刑とする司法判断は珍しくなくなったとされる。最高裁司法研修所の報告では、80～09年の30年間に殺人や強盗殺人の罪で死刑が確定した193件のうち、「被害者1人」は32件。大半が仮釈放中の犯行だったり、私利私欲のために最初から殺害を計画するなど、被害者の数以外に特別な事情があった。

今回、自ら強姦や強盗目的だったことを告白し、前科もないなど、被告に有利な事情はあったが、裁判員はそれ以上に、残虐性や厳しい遺族感情を重視したといえる。

死刑か無期かの境界は従来、「あいまい」と指摘されてきた。裁判員になれば誰もが直面する課題だけに、量刑基準を巡る論議を深める必要がある。

岡山・元同僚女性殺害：1人殺害、強盗強姦罪の被告に死刑判決 岡山地裁で裁判員裁判

“2013/03/27 毎日新聞 朝刊 10ページ 1961文字

◇問われる法曹三者の役割

岡山地裁は先月、元同僚の女性を殺害したとして強盗殺人、強盗強姦(ごうかん)などの罪に問われた大阪市住吉区の無職、住田紘一被告(30)に死刑判決を言い渡した。だが、裁判員裁判で行われた審理で、被告の更生可能性が十分に検討されたのか、疑問が残った。判決文は簡潔すぎて死刑を選んだ理由を説明し尽くせていない。被告に内省を促し、裁判員裁判を定着させるためにも、裁判官、検察官、弁護士の「法曹三者」と呼ばれるプロの法律家の役割が、より重要だと主張したい。

◇厳しい判断だが説明が不十分

裁判員裁判の死刑判決は16件目。被害者1人の事件では3件目だが、前科のない被告では初めて。死刑判決の判断基準「永山基準」(83年最高裁)では被害者の人数が重視されており、これまでの死刑判決と比較しても厳しい判断だったといえる。

=====
言い渡しはわずか10分間ほどだった。判決は「深まりに乏しい反省態度や凶悪で非情な犯行計画を実行できたことからして、犯罪的傾向を有することも否定できない」として、「更生可能性は高いとはいえない」と結論づけた。私は発生直後から、この事件を取材し、人間の尊厳を踏みにじる犯行は許せないと考えてきた。しかし判決には、年齢や社会的な影響を「酌量すべき事情ではない」と判断した理由など、説明不足な点が多いと感じた。

判決によると、住田被告は11年9月、岡山市内の元勤務先の会社敷地内で、派遣社員の加藤みささん(当時27歳)を倉庫に誘い込み、現金を奪って性的暴行を加えて刺殺。遺体を大阪市に運んで刃物で解体し、川などに遺棄した。

被告は起訴内容を認め、動機について「別の女性との交際に満足できず、欲求不満を解消したかった」と話した。殺人罪で起訴された後、事件発生から半年後の昨年3月になって、検察官に「真相を話していない」と手紙を送り、性的暴行を告白したことから、強盗殺人と強盗強姦の罪に訴因変更された。

法廷で被告の発言内容は揺れた。当初「殺人は手段として是認される」と述べたが、被告の両親が「本当は優しい子」と証言すると態度を一変。「死刑になるために自分を悪く見せようとした」と涙を流し、遺族に「ごめんなさい」と頭を下げた。検察側の論告後、被告は「両親を残して命を絶てない」とも述べた。

◇被告の態度変化、振り回されて

被害者参加制度を利用して法廷に臨んだ加藤さんの父裕司さん(60)は「私たちを何回苦しめるのか」と疑問を投げかけた。裕司さんは最愛の娘を奪われた無念さを語り、「最低でも死刑に」と訴えた。しかし死刑判決後の記者会見で「達成感はない」と話した。二転三転した被告の態度に、40代の男性裁判員は「真相に迫れたかどうか疑問だ」と話し、別の裁判員は「難しい判断だった」と述べた。法廷に立ち会った法律専門家は「みんな被告に振り回された」と分析した。

事前に争点を整理する公判前整理手続きでは、法曹三者は「事実関係に争いはない」と一致した。強盗殺人の法定刑は死刑か無期懲役なので争点は、死刑の選択が妥当かどうかに絞られた。しかし、裁判員に十分な判断材料が提供されたのかどうか疑問だ。特に専門家である法曹三者の取り組みが不十分だったのではないかと。

岡山大法科大学院の上田信太郎教授(刑事訴訟法)は「法律の素人である市民が参加する裁判員裁判では、逆に法律の専門家の力量が試される」と指摘する。しかし、公判では、被告の生い立ちにも、2度実施されたという精神鑑定にもほとんど触れられなかった。事件に至る被告の精神状態など、事件の核心部分には未解明の点が少ない。被告が検察官に手紙を送って告白した経過の評価や、更生に向けた両親の協力など検察側と弁護側で対立した主張を争点化して、緻密な議論を重ねる余地はかなりあった。

被告はなぜ、遺体を切り刻んで捨てるという残忍な行為に及んだのか。被告の内面に迫り、真相を解明するには、弁護側、検察側双方が立証を積み重ねて「なぜ」を突き詰めていくプロセスが欠かせない。被告に一つ一つ問い続けることで「心の底からの謝罪を」と求める遺族の願いにも応えられるはずだ。

国際的に死刑撤廃の動きが広がる中、私は死刑の適用は慎重であるべきだと考えている。弁護側の控訴を受けた控訴審では、更生可能性の有無をはじめ、疑念を挟む余地がないくらい判断の理由に踏み込んで、被告にその刑事責任を問いかけてほしい。

.....
ご意見をお寄せください。〒100-8051 毎日新聞「記者の目」係

/kishanome@mainichi.co.jp

■写真説明 裁判員裁判で死刑か無期懲役かの判断が問われた=岡山地裁で2月5日(代表撮影)

強盗殺人に死刑判決 岡山地裁「性的被害も重大」 【大阪】

“2013/03/30 大阪読売新聞 朝刊 35ページ 252文字

岡山市で2011年9月に派遣社員加藤みささん(当時27歳)を殺害したなどとして、強盗殺人罪などに問われ、岡山地裁で死刑判決を受けた元同僚住田紘一被告(30)が、控訴を取り下げたことがわかった。これで死刑判決が確定した。

今年2月14日の判決後、弁護側が即日控訴。取り下げは3月28日付で、主任弁護人だった弁護士は「控訴審で遺族に謝罪の意思を示すよう勧めたが、被告は取り下げることで謝罪しようとしたようだ」と話した。1人が殺害された事件の裁判員裁判で死刑判決が言い渡され、確定した事例は初めてとみられる。

記者の目：裁判員裁判の死刑判決 = 五十嵐朋子 (岡山支局)

“2013/03/30 朝日新聞 朝刊 29ページ 1144文字

「娘は帰ってこない。悔しさは生きる限り続く」――。岡山市で派遣社員の加藤みささん(当時27) = 東区 = が殺害された事件で、死刑判決を受けた住田紘一被告(30)の控訴取り下げが明らかになった29日、加藤さんの父、裕司さん(60)が岡山市内で心境を語った。

●父「反省芽生えたのか」

「やっと被告人に反省する気が芽生えたのかな、と思う」。岡山市内で会見した裕司さんは冒頭にそう述べた。

被告は公判が始まるまで遺族に謝罪していなかった。「本当にすまないと思うのなら、もっと早く知らせてほしかった」

死刑確定の一報はこの日、被害者支援団体の弁護士から受けた。

死刑確定について「犯した罪から考えると当然」としながら、「1人の青年を死に追いやる側の立場。喜ぶことはできない。その点で複雑」と話した。死刑を素直に受け止められない理由はもう一つある。「娘は帰ってこない。その事実が苦しい」。その言葉に、同席した妻が何度もうなずいた。

「許されることなら、被告に会って気持ちを聞きたい。控訴の取り下げは、反省の一部だとは思う」

娘の死から30日で1年半になる。だが、やりきれない思いは消えない。

「人並みでよいから結婚し、子どもを産んで、家庭を築いてほしかった。そのサポートが果たせなかった悔しさは、生きている限り捨てきれない」

被告を今後許せるか――。記者にそう問われると「被告がどう反省し、償おうとするのか。その行為次第だと思います」と話した。

●被告「自分にできる供養を」

住田被告は自分の弁護人を通じ、裕司さんら遺族あてにメッセージを寄せた。会見に同席した支援団体「被害者サポートセンターおかやま」の高原勝哉弁護士が明らかにした。

「とんでもないことをしてしまったという思い、被害者の命を奪ってしまったのに自分は生きているという罪悪感があります。判決の結果は当初から受け止めようと思っていました。

取り下げがこの時期になったのは、自分に生きていて欲しいという自分の家族の気持ちと存在、死刑になりさえすればそれでいいのかという気持ちがあり、迷いがありました。本当に申し訳ないという気持ちです。今後は、ご遺族の気持ちを理解したい、独りよがりの考えをなくせるようにしたいと考えています。みささんに対して思いをはせ、自分にできる供養をしていきたいと思います」

住田被告の主任弁護人、杉山雄一弁護士は「一審判決の内容は、被告の更生可能性について十分な検討がなされておらず、到底是認できない。控訴審で更なる立証・弁護活動を尽くすつもりでいたが、このような結果になり残念だ」とするコメントを出した。

(長谷川健、藤原学思)

【写真説明】

住田紘一被告の控訴取り下げを受けて記者会見した加藤裕司さん = 岡山市北区

元同僚殺害 死刑確定

“2013/03/30 朝日新聞 朝刊 38ページ 209文字

岡山市で2011年9月、元同僚の派遣社員、加藤みささん(当時27)を殺害したとして強盗殺人と強盗強姦(ごうかん)、死体遺棄などの罪に問われ、岡山地裁の裁判員裁判で今年2月、死刑判決を受けた無職住田紘一被告(30)が、控訴を取り下げたことがわかった。住田被告の死刑が確定した。

参考事件住田紘一 (澁谷恭正が似てる)。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>

被告の弁護人が即日控訴していた。広島高裁岡山支部によると、住田被告本人が28日、控訴取り下げを申請し、高裁岡山支部が29日に受理したという。

「娘は帰ってこない」 27歳女性殺害、控訴取り下げで死刑確定 / 岡山県

“2013/03/30 東京読売新聞 朝刊 38ページ 130文字

岡山市で2011年9月に派遣社員加藤みささん(当時27歳)を殺害したなどとして、強盗殺人罪などに問われ、岡山地裁で死刑判決を受けた元同僚住田紘一被告(30)が、控訴を取り下げたことがわかった。被害者が1人での死刑判決は異例だったが、これで死刑判決が確定した。

岡山の強盗殺人 死刑判決が確定 被告控訴取り下げ

“2013/11/25 大阪読売新聞 朝刊 33ページ 537文字

犯罪被害者週間(25日～12月1日)を前に、長女(当時27歳)を殺害された加藤裕司さん(60)(岡山市東区)が24日、岡山市中区の三光荘で講演。約200人の聴衆を前に「誰もが犯罪に巻き込まれる可能性がある。一人では解決できない」と犯罪被害者・遺族への支援を訴えた。県警と県主催の「犯罪被害者支援フォーラム2013 in おかやま」の基調講演。加藤さんが県内で一般向けに語るのは初めて。

長女のみささんは2011年9月、会社の元同僚の男(31)に殺害された。加藤さんは裁判員裁判で、被害者参加制度に基づき男に直接質問。地裁は今年2月、男に死刑判決を下し、3月に刑が確定した。加藤さんは講演で、事件当時、「お父さん、助けて」とどこかでみささんが叫んでいると思うと涙が止まらずに眠れなかったことや、死を知った瞬間は、強い力で頭を押さえられた様で言葉にならず、隣で妻が泣き崩れていたこと、裁判開始までの1年半、裁判員裁判関連の書物を読みふけたことなどを振り返った。極刑にも喜びはなく、「人並みの幸せを与えてやれなかった」という悔いがあると説明。現在は被害者の権利保護を求める運動に取り組んでおり、「みさの分まで生き、いつか『お父さん、頑張ったね』と言ってもらいたい」と語った。

岡山の女性殺害の被告、死刑判決が確定 控訴取り下げ 【大阪】

“2014/06/08 朝日新聞 朝刊 26ページ 661文字

岡山市で2011年、派遣社員の加藤みささん(当時27) = 東区 = が殺害された事件で、加藤さんの母親が7日、事件後初めて講演に臨み、「被害者家族の思いー悲しみとともに生きるー」と題して心の内を語った。

事件・事故の被害者やその家族を支援する社団法人「被害者サポートセンターおかやま」(VSCO〈ヴイスコ〉)の主催。会場のきらめきプラザ(北区南方2丁目)には弁護士や被害者支援員ら約50人が参加し、講演に聴き入った。

みささんは11年9月、元同僚の住田紘一・死刑囚(31) = 強盗強姦、強盗殺人罪などで死刑確定 = に勤務先の会社倉庫で首などを刺されて死亡した。「人に憎まれるような娘ではなかったのに、なぜ……」。娘の死を知らされた母は「ショックというより、信じられない気持ちでいっぱいになった」。

突然執り行うことになった愛娘(まなむすめ)の葬儀。ほかの家族から「身内だけで静かにやってあげよう」という声が上がったが、母は反対した。「せめて天国へ送ってあげるときは、たくさんの人に見守ってもらいたい」

娘には婚約者がいた。結婚、出産と楽しみはいくつもあったのに――。「女同士だからこそ遠慮なく話し合え、分かり合えるのが母と娘」。その娘がいなくなって2年あまり。周囲の支えがあり、娘がいなくても寂しさを感じながらも「平穏な日々も訪れるようになった」。

つらい出来事があったとき、そっと自分の肩を触れるという。「笑われるかもしれないけれど、亡き娘は自分の肩にいて、私を守ってくれています」(長谷川健)

【写真説明】

加藤みささん = 遺族提供

犯罪被害者へ支援訴え 元同僚殺人 女性の父講演 = 岡山

“2014/11/26 毎日新聞 大阪夕刊 2ページ 2685文字

◇愛娘の笑顔のため 怒りを支えにした日々は終わりに

犯罪被害者の父を変えたのは、「復讐（ふくしゅう）心が顔にあふれている」という友人の一言だった。3年前、27歳の愛娘を会社の元同僚に殺された岡山市の加藤裕司（ひろし）さん（61）は、大学などで講演し、事件を伝え続けている。加藤さんの心の軌跡をたどりたい。

「人の温かみとか愛情とか、うれしさや悲しみを共有する経験をできる子が少なくなっているから、犯罪が増えるのだと思う」。岡山市北区の岡山理科大で今年9月、加藤さんは約80人の学生を前に話した。岡山県警などの依頼を受け、月に2回のペースで講演に取り組んでいる。事件直後から裁判員裁判までの経験を振り返り、こう呼び掛ける。「ある日突然、事件は起きて、巻き込まれる。みんなの力で、犯罪に向かう人を少しでも食い止めることが必要です」

IT関連会社の派遣社員だった長女のみささんは2011年9月、会社帰りに行方不明になった。6日後、殺人容疑で逮捕されたのは、その会社を辞めたばかりの元同僚、住田紘一死刑囚（32）だった。彼は遺体を切断したうえ、遺棄していた。遺族には遺体の一部しか戻らず、後に性的暴行を受けていたことも明らかになった。好みの女性を狙ったという。

事件後、加藤さんを支えたのは、怒りだった。裁判員裁判で、住田死刑囚は「殺人は是認される」と述べた。しかし、その翌日には「死刑になるためにうそを言った」と謝罪するなど、態度が定まらず、法廷を混乱させた。加藤さんは意見陳述で「最低でも死刑に」と強く訴えた。

加藤さんは拘置所の住田死刑囚に面会を望んだが、死刑囚に面会できる人は限られていた。「罪の意識を感じて苦しんでほしい」。便箋5枚にみささんの小さい頃からの成長ぶりをつづり、住田死刑囚宛てに送ったが、返事はなかった。今年の夏を境に、加藤さんの心境は変わった。「住田死刑囚へのこだわりを捨てた」。加藤さんは経営コンサルタントの仕事をしている。転機は、3年ぶりに会った仕事上の友人の一言だった。初めて事件のことを話すと、「復讐心が顔にあふれている」と指摘された。「表には出していないつもりだったのに」とショックを受けた。友人は「それでは娘さんは喜ばないぞ」とも言った。

墓前で何度も考えた。「どうすれば天国で『これが私の自慢のお父さん』と言ってもらえるか」。加藤さんは一つの答えにたどりつく。「住田へ向けるエネルギーを、人の役に立つことに振り分けた方が、みさは喜ぶんじゃないか」

◇毎朝の墓参、会いに来たよ

みささんが暮らした岡山市東区瀬戸町は山あいののんびりした町だ。日のよく当たる山の斜面にみささんのお墓はある。加藤さんは花を絶やさないために毎朝訪れている。私は9月27日、同行してその坂を上った。

「みさには、黄色とかオレンジ系が似合うと思うんですよ」。そう言って、加藤さんは手際よく傷んだ花をより分けた。家族が知らないうちに花やメッセージカードを供える人がいるといい、墓石の前には予備の花瓶が置いてあった。

「以前は『どうして、どうして』という気持ちが強かったけれど、今は『会いに行く』という感じ」。加藤さんは、みささんのことを語ってくれた。おとなしく目立つのを嫌ったが、芯の強い子だった。中学時代は吹奏楽部の練習に打ち込んだ。近くの県立高校を卒業、地元の大学に進学して幼児教育を専攻したものの、幼稚園教諭は門戸が狭いと聞いて迷いが出た。

「学校をやめたい」というみささんと、「卒業だけはしなさい」という加藤さん。大学4年の8月、みささんは父に退学届を差し出した。「9月から就職先も決まっているから」との言葉に、加藤さんは観念した。「結論を出すまでにごく時間がかかるけど、一旦決めたら頑として変えない。僕に似たかな」と笑う。「奥手だから彼氏ができないのでは」と心配したが、吹奏楽を通して知り合った男性と婚約した。しっかりしたみささんに似合いの、優しい男性だった。

「娘と腕を組んで街を歩くのが夢だった」。みささんのことを語る口調は楽しそうで、優しい。私には、愛する娘の記憶を事件の悲しさに染めまいとしているように見えた。

◇納得できない思い抱えつつ

自宅には、今も血で真っ黒に染まった娘のワンピースが保存されている。講演で、話が事件当時の出来事に差しかかると、涙で言葉に詰まる。墓前で「会いたい」という気持ちが募り、涙が止まらなくなることもある。

もちろん、納得できないことがある。例えば、住田死刑囚がみささんの財布から奪った2万4000円。法廷で、住田死刑囚は「現金は遺体を切断するためにガレージを借りる資金にした」と話したが、遺族の元に返されないままだ。多額ではないかもしれないが、加藤さんはこう思う。「取ったものは返せよ。小さなことをきちっとやるのが、誠意ではないのか」。住田死刑囚や家族から謝罪の言葉は、まだ聞いていない。

住田死刑囚の裁判員裁判は、被害者が1人で前科がない被告に死刑判決が言い渡されたことから、「裁判員裁判の厳罰化を象徴している」と言われた。昨年3月、住田死刑囚が自ら控訴を取り下げ、死刑が確定した。「娘と同じ屈辱を味わって死んでくれて、初めてイーブン」という思いは変わらない。

加藤さんが大学で講演することが増えたのは今年の春からで、これまでに10回以上を数えた。必ず話すのが、父親にとっての娘の大切さだ。「もし、自分の姉妹や彼女がこんな事件に巻き込まれたらどういう気持ちがするか、思いをはせてください」と呼び掛ける。「一人でも『かわいそうだな』と思ってくれば、みさの悲しみが癒やされるような気がする」

憎しみだけに縛られないように――。加藤さんは娘に誓っている。=次回は12月10日

◇岡山元同僚殺害事件

2011年9月30日夕、岡山市北区の会社敷地内で、加藤みささんが元同僚の住田紘一死刑囚に殺害され、遺体は大阪市内の川などに遺棄された。住田死刑囚は同10月6日、殺人容疑で逮捕され、殺人、死体損壊・遺棄などの罪で起訴された。12年5月に強盗強姦(ごうかん)、強盗殺人などの罪に訴因変更された。13年2月の裁判員裁判で死刑判決を言い渡され、既に刑が確定している。

■写真説明 亡くなる約1時間前、会社で同僚と撮影した加藤みささんの写真=加藤裕司さん提供

■写真説明 みささんの墓前で花を整える父の加藤裕司さん=岡山市東区で9月27日、五十嵐朋子撮影

「亡き娘、守ってくれている」 派遣社員女性殺害事件、加藤さんの母講演 / 岡山県

“2015/03/03 大阪読売新聞 朝刊 31ページ 506文字

犯罪被害者の遺族による講演会が2日、徳島市内のホテルで開かれ、2011年に長女(当時27歳)が元同僚に殺害された岡山市東区の加藤裕司さん(63)の話に、約80人が耳を傾けた。

県犯罪被害者支援連絡協議会などが主催。加藤さんの長女・みささんは会社からの帰宅中、元同僚の住田紘一死刑囚に会社の倉庫に連れ込まれ、刺殺された。

加藤さんは講演で、みささんの行方がわからず、住田死刑囚が逮捕されるまでの間について、「みさがどこかで『助けて』と叫んでいるような気がして、自分が普通に生活している場合ではないと感じた」と言い、眠れず、食事が喉を通らなかったことを明かした。

岡山地裁での裁判員裁判などを通じ、常に住田死刑囚への復讐(ふくしゅう)を考えてきたが、知人から顔つきが変わったことを指摘され「みさが喜んでくれる生き方をしよう」と考えるようになったと説明。今は犯罪被害者や遺族らの権利確立を求める活動に取り組んでおり、「事件は風化し、当事者以外の記憶は薄れていく。当事者の私たちの声を通して、一人でも多くの人に被害者の存在を知ってもらいたい」と訴えた。

写真=みささんが殺害された事件について語る加藤さん(徳島市で)

特集ワイド・ニュースアップ: 殺人事件被害者の父、その心の軌跡 家族の大切さ、講演続ける=岡山支局・五十嵐朋子

“2015/04/09 朝日新聞 朝刊 17ページ 447文字

=====

■彼の3倍も.....

1日にアンコール放送された「昭和偉人伝 尾崎豊」(BS朝日)で、たくさんの事実を知り、彼の心の闇を知りました。あんな心を絞り出すような歌詞や曲が書ける尾崎に、心が弱い私は共鳴し、亡くなった後もウォークマンで曲を聴きながら、定年まで勤めることが出来ました。東京・渋谷にある尾崎豊の記念の場所にも退職後に行きました。私のカラオケ曲のひとつは「アイラブユー」です。彼の3倍も生きてしまい、年をとると寂しいです。

(名古屋市・加藤みさ・無職・80歳)

■復活を願って

「中居正広のキンスマSP」(3日、TBS系)で、清原和博さんを見直しました。人は心の有りようで“相”があんなにも変わるとは。野球界を去った頃は失礼ながら嫌いでした。しかしひざの痛みを耐えて四十八場所のお遍路旅を終え、中居さんと穏やかに話す場面にこみ上げるものがありました。多くの野球関係者が工一を送っていましたね。まだ人生半ば。何らかの形で野球人・清原の復活がありますように。

(福岡市・永井祝子・無職・76歳)

犯罪被害者 忘れないで 岡山・加藤さん 徳島で講演 = 徳島

“娘失ったつらさ消えず 犯罪被害者の会 加藤さん 県警で講演 = 鳥取

2016/05/29 大阪読売新聞 朝刊 26ページ 484文字

全国犯罪被害者の会「あすの会」会員の加藤裕司さん(63)(岡山市)が県警本部で講演。県内の犯罪被害者支援団体の関係者らを前に、長女を事件で失った胸の内を語った。

加藤さんの長女みささん(当時27歳)は2011年9月、元同僚の男に殺害された。加藤さんは、被害者参加制度を利用して裁判員裁判に参加。岡山地裁は13年2月、男に死刑判決を言い渡し、その後、刑は確定した。

23日に行われた講演では、みささんが行方不明になった直後、何もできない悔しさや心配で、眠れない状態だったことを振り返り、「助けられなかったつらさが消えない」と涙ながらに訴えた。

また、死刑確定後も、男を憎んでいたが、「それでは娘は喜ばない。『お父さん、頑張ったね』と言ってもらえる生き方をしようと思った」と犯罪被害者支援に力を注ぐようになったことを語った。

鳥取保護観察所の保護観察官、森迫ルミ子さん(39)は「加害者の社会復帰支援でも、被害者やその家族の気持ちを知ることとはとても大切。直接話を聞くことができ、勉強になった」と話していた。

写真 = 長女を亡くした事件について語る加藤さん(県警本部で)

はがき通信

“講演：苦しむ被害者救いたい 娘を殺害された男性、中国短大で / 岡山

2017/06/27 毎日新聞 地方版 22ページ 642文字

娘を殺人事件で失った加藤裕司(ひろし)さん(64)が22日、中国短期大(北区庭瀬)の1年生約50人を前に講演した。加藤さんは時に涙を流しながら事件を振り返り、「さまざまな人から助けをいただいた。今度は私の番。助けを必要としている人がいれば、みなさんも手を差し伸べて」と訴えた。

加藤さんは2011年、派遣社員だった長女みささん(当時27歳)を元同僚の男 = 死刑が確定 = に殺された。遺体は損壊され、遺棄されていたために死に顔すら見ることができず、裁判が終わった後も加害者を苦しめたいとばかり願っていた。そんな時、友人から「お嬢さんがそんなことを望んでいるのか?」と問いかけられ、どう生きたらよいのかを考え直したという。約4年前から講演活動を始め、全国犯罪被害者の会(あすの会)の会員としても活動している。

講演では、家族が犯罪に巻き込まれたために精神的に病んで仕事ができなくなったり、子どもが進学を諦めたり、事件現場となった家に住めなくなってしまうたりした人に経済的支援をする基金作りに取り組んでいることを明かした。「苦しんでいる1人でも多く救うことが私に課せられた天命だと思っている。天国にいる娘に恥をかかせないように頑張りたい」と話した。

=====
総合生活学科1年の藤田望未(のぞみ)さん(19)は「こんな事件が岡山で起きていたとは知らなかった。今に感謝しながら生きていきたいと思った」と話した。【林田奈々】

■写真説明 加藤みささんの写真を前に思いを語る父裕司さん=北区庭瀬の中国短期大で

“2017/07/13 朝日新聞 夕刊 11ページ 1180文字

法務省は13日、2人の死刑を執行した。1人は再審請求中で、1人は裁判員裁判で1人殺害で死刑とすることの是非が争われた。死刑廃止を求める市民団体からは反発が出ているが、被害者の遺族は「特別な感慨はない」と話した。▼1面参照

女性4人を殺害するなどして死刑が執行された西川正勝死刑囚(61)は、これまでに、再審請求を複数回行ったが、その都度、棄却され、現在も請求中だった。

法務省は、死刑の重みを最大限考慮し、再審請求中だったり、事件の共犯者が公判中や逃亡中だったりした場合は、執行を回避する傾向があった。再審請求中の死刑囚の刑を執行したことには確定判決を重視し、死刑囚の中で執行の優先順位をめぐって不公平さを生じさせないようにしたい狙いがある。法務省内には「罪を受け入れた人が執行され、受け入れない人が執行されないのでは不公平感が生まれる」との声もある。

一方、この日、2人の執行に対し、人権団体などからは批判の声が上がった。

国際人権NGO「アムネスティ・インターナショナル日本」の山口薫さん(39)は「政府の情報公開が不十分なまま死刑が執行され、2人の命が失われたことは残念だ。政府は再審請求中でも執行できるという立場だが、国際人権法上は、機会を保障すべきだと考える国の方が多い。人権無視だ」と批判した。

日本弁護士連合会で死刑廃止に取り組む海渡雄一弁護士は「被害者が1人で死刑を執行したのは、厳罰化傾向を執行面でも追認していると言え、人権保護の観点から問題が大きい。執行には慎重であるべきだったと思う」と述べた。(小松隆次郎、山本亮介)

■被害者遺族「感慨ない」 岡山の事件

広島拘置所で執行された住田紘一死刑囚(34)は11年、岡山市で元同僚の女性派遣社員、加藤みささん(当時27)を殺害した罪で、13年2月に岡山地裁の裁判員裁判で死刑判決を受けた。裁判では殺害された被害者が1人で死刑を適用すべきかも争点になった。

父親の加藤裕司さん(64)は13日午前、朝日新聞の電話取材に「特別な感慨はない。うれしさも悲しさもつらさも、何もない」と話した。裕司さんは住田死刑囚に一度、手紙を書いたことがある。どれほど娘を愛していたか、どんな娘だったのか。便箋(びんせん)5枚に思いを書き連ねた。しかし、返事はなかった。「10年、20年たったら許せる日がくるのかもしれないと思っていたけれど反省は感じられなかった」これまでに80回ほど講演し、同じ境遇の被害者の支援にも力を注ぐ。「憎むことにエネルギーを使うよりも、そちらの方が娘のためになると思った」という。

娘が眠る墓には毎朝、毎夕、1日2度足を運ぶ。花を枯らせたことは一度もない。「執行されたよ。これからも頑張るよ」。この日、みささんに死刑の執行を報告したという。

(藤原学思)

【写真説明】

西川正勝死刑囚

“2017/07/13 朝日新聞 夕刊 9ページ 1594文字

法務省は13日、17年半ぶりに再審請求中の死刑囚の執行に踏み切った。確定判決を重視し、死刑囚の間で執行の優先順位をめぐり不公平さが生じないようにする狙いがある。ただ、死刑廃止を求める市民団体からは反発が出ている。▼1面参照

西川正勝死刑囚(61)は再審請求を複数回行ったが、その都度、棄却され、現在も請求中だった。法務省はこれまで再審請求中だったり、事件の共犯者が公判中や逃亡中だったりした場合は、執行を回避する傾向があった。

前回、再審請求中に死刑が執行されたのは1999年のことだ。法務省内には「罪を受け入れた人が執行され、受け入れない人が執行されないのでは不公平感が生まれる」との声もある。

=====
また、今年6月には当時90歳の死刑囚が吐いた物をのどに詰まらせ死亡。数十年にわたって収容が続く死刑囚もあり、死刑囚の高齢化も省内では課題になっていた。

今回の執行に人権団体からは強い反発が起きた。

国際人権NGO「アムネスティ・インターナショナル日本」の山口薫さん(39)は「政府の情報公開が不十分のまま死刑が執行され、2人の命が失われ、残念だ。政府は再審請求中でも執行できるという立場だが、国際人権法上は、機会を保障すべきだと考える国の方が多い。人権無視だ」と批判した。(小松隆次郎、山本亮介)

■西川死刑囚、裁判へ不信感

大阪拘置所で死刑執行された西川正勝死刑囚は2008～15年にかけて、死刑廃止を求める市民団体が行ったアンケートに対し、自らの裁判への不信感をあらわにしていた。

「(検察側の)証人はコロコロと話が変わり、全く信用が出来ない。それなのに弁護側の主張を聞いてくれない点に怒りを覚え、納得がいかないで闘っている」。DNA型鑑定の誤りから再審無罪となった「足利事件」を引き合いに、自らの事件の鑑定の信用性にも疑問を呈した。

一方、11年のアンケートでは長引く拘置所生活についても触れており「拘禁病、孤独病などの症状が出ており、ストレスもかなりたまっておりイライラしております」「精神安定剤も飲んでるし、睡眠薬も飲んでる始末です」と不安定な心情がうかがえる。

心境を俳句にし、寄せてもいた。

《重陽や 菊も目にせぬ 獄舎かな》

確定判決によると、91年12月、当時40～50歳代の女性を殺害して現金を奪うなどし、翌年1月には、大阪市で落語家の桂あやめさんの首を絞めて現金14万円を奪った。公判では起訴内容の大部分を否認していた。

■「反省感じられず」 被害者父、住田死刑囚に

広島拘置所で執行された住田紘一死刑囚(34)は11年9月、岡山市で元同僚の派遣社員・加藤みささん(当時27)を殺害。殺害された被害者が1人の事件で死刑を適用すべきかが争点になったが、13年2月、岡山地裁は命乞いする被害者を殺害した経緯などに触れ死刑判決を言い渡した。住田死刑囚は裁判員裁判の最終陳述で「私に罪を償うことはできません。償いとは被害者が生きて帰ってくることだからです」と述べていた。

みささんの父親の加藤裕司さん(64)は13日午前、朝日新聞の電話取材に「特別な感慨はない。うれしさも悲しさもつらさも、何もない」と話した。裕司さんは住田死刑囚に一度、手紙を書いたことがある。どれほど娘を愛していたか、どんな娘だったのか。便箋(びんせん)5枚に思いを書き連ねたが、返事はなかった。「10年、20年たったら許せる日がくるのかもしれないと思っていたけれど、反省は感じられなかった」

これまでに80回ほど講演し、同じ境遇の被害者の支援にも力を注ぐ。「憎むことにエネルギーを使うよりも、そちらの方が娘のためになると思った」という。

娘が眠る墓には毎朝、毎夕、1日2度足を運ぶ。花を枯らせたことは一度もない。「執行されたよ。これからも頑張るよ」。この日、みささんに死刑の執行を報告したという。

再審請求中の死刑、反発も 法務省は執行順の公平性重視

“2017/07/14 毎日新聞 朝刊 29ページ 1890文字

確定死刑囚2人の刑が13日午前に執行されたことについて、金田勝年法相は同日午後、臨時記者会見を行った。執行されたのは、1991年に女性4人を殺害するなどし、再審請求中だった西川正勝(61)＝大阪拘置所＝と、2011年に元同僚の女性を殺害した住田紘一(34)＝広島拘置所＝の2死刑囚。再審請求中の執行は99年12月以来とみられ、極めて異例。金田法相は「再審請求を行っているから執行しないという考えはとっていない」との見解を示した。【鈴木一生】

再審請求は判決が確定した裁判をやり直す「再審」を求める手続き。無罪を言い渡すべき明らかな新証拠がある場合などに裁判所が再審開始を決定する。請求に回数などの制限はない。

金田法相は、西川死刑囚が請求中だったか否かは明言を避けた。一方で、請求中の執行を疑問視する意見があることを問われると、「仮に再審請求の手続き中には執行命令を出さない取り扱いをしたら、再審請求を繰り返す限り永久に執行をなしえない」と述べた。

確定判決によると、西川死刑囚は91年12月に松江市、京都市、兵庫県姫路市で女性4人を相次いで殺害し、翌月に落語家の女性の首を絞めて負傷させ、現金を奪った。関係者によると、最高裁が05年6月に上告を棄却し判決が確定した後、複数回にわたって再審請求を行っていたという。

住田死刑囚は11年9月、岡山市の会社倉庫で派遣社員の女性(当時27歳)から現金を奪い、性的暴行の後に刺殺し、遺体を切断して遺棄した。1審・岡山地裁の裁判員裁判は13年2月、被害者1人の事件としては異例の死刑を選択し、弁護側が控訴したが、本人自ら控訴を取り下げて確定した。裁判員裁判で死刑判決を受けた死刑囚の執行は3人目。

◇「ゆゆしき問題」NPO法人

NPO法人「監獄人権センター」などは東京・永田町の参院議員会館で記者会見。代表の海渡雄一弁護士は再審請求中の執行に触れ、「ゆゆしき問題だ。法務省がどういう基準で執行の対象者を選んでいるのか、見解を確認する必要がある」と述べた。

死刑囚へのアンケートなどを行っている市民団体「死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90」は抗議声明を発表。西川死刑囚は自力で再審請求や恩赦の出願を繰り返していたとされ、11年のアンケートでは「最後の最後まで悔いを残さぬよう戦っていきます」と記していたという。声明は「政府は死刑執行を停止し、広く社会に向かって死刑廃止に向けた議論を開始すべきである」とした。【鈴木一生】

◇遺族、消えない無念 悲しみ抑え「娘の墓前に報告」

住田死刑囚に殺害された加藤みささん(当時27歳)の父裕司(ひろし)さん(64) =岡山市東区=が13日、同区内で報道各社の取材に応じ「執行は意外に早かったが、うれしいとか悲しいという気持ちはない。娘は帰ってこない。今も無念で、(住田死刑囚を)許すことはない」と憤りの思いを語った。

死刑の執行はこの日午前、日課としている娘の墓参りから帰る途中に知った。墓前に戻り「死刑執行されたよ。お父さん、今まで通り頑張るから」と報告した。

住田死刑囚は、みささんの勤務先のIT関連会社の元同僚。会社倉庫で犯行に及んだ。遺体は切断されて川などに捨てられ、一部しか戻らなかった。

事件後、住田死刑囚を苦しんで死なせたいと思い詰めた。罪に向き合わせようと、みささんの成長ぶりをつづった手紙を拘置所に送った。そんな時、友人に「お嬢さんがそんなことを望んでいるのか?」と問い掛けられ、思い直した。「住田死刑囚に向けてエネルギーを使うより、同じ境遇で苦しむ人を救うべきだ。天国にいる娘に恥をかかせたくない」。約4年前から事件を伝える講演を始めた。各地で犯罪被害者が精神的にも経済的にも苦しむことを訴え、回数は約80回に上る。

被害者が1人の殺人事件の場合、裁判所は死刑を回避することが多い。今回の事件で殺害されたのはみささん1人だが、裁判員裁判での結論は死刑だった。裕司さんは「被害者が1人であるために死刑が回避され、多くの遺族が苦しんできた。判決は大きな意味がある」と話す。

今も娘の墓前で時折、大泣きしてしまう。「娘を守るという親としての義務を果たせなかった」との思いがこみ上げてくるからだ。「犯罪被害は多くの人にとって縁遠いものかもしれないが、一人でも多くの人に『自分にも何かできるのでは』と気付いてもらえれば」と活動を続ける決意を語った。【林田奈々、写真も】

■写真説明 「娘の墓前に報告しました」と語る、殺害された加藤みささんの父裕司さん =岡山市東区の県警赤磐警察署で13日

再審請求中の死刑、反発も 17年半ぶり執行、法務省は公平性強調 【大阪】

“2018/11/26 西部読売新聞 朝刊 25ページ 362文字

2011年に長女(当時27歳)を強盗殺人事件で失った加藤裕司(ひろし)さん(65)が25日、美祢市民会館で講演した。約300人を前に、犯罪被害者家族の実情と支援の重要性を訴えた。

「犯罪被害者週間」(25日～12月1日)に合わせ、山口被害者支援センターなどが主催した広報啓発行事の一環。加藤さんは、同年9月、長女のみささんを岡山市北区の会社で元同僚の男に殺害された。現在は被害者支援に取り組む「つなぐ会」会員として活動している。

参考事件住田紘一（澁谷恭正が似てる）。HP: <http://partime.biz/jp/> オンライン署名: <http://sign.partime.biz/jp/>
=====

講演で加藤さんは、事件発生から裁判にいたるまでの経験や思いを説明。娘の死を知らされたときの心情を「窒息するようで、自然にぼろぼろと涙が出た」と振り返った。また、自らの活動にも触れ、「犯罪被害者支援基金を作って、経済的な支援をしていきたい」と語った。

写真 = 犯罪被害者家族について語る加藤さん

死刑執行：91年の4女性殺害 再審請求中、除外せず 法相見解

“2019/06/30 大阪読売新聞 朝刊 32ページ 377文字

岡山県で2011年9月、長女を殺害された加藤裕司さん(66)が27日、奈良市の県警本部で開かれた「なら被害者支援ネットワーク」総会で講演し、約120人が耳を傾けた。

加藤さんの長女みささん(当時27歳)は、仕事からの帰宅途中、元同僚の男(死刑執行済み)に会社の倉庫に連れ込まれて殺害され、その後、遺体を遺棄された。

加藤さんは講演で、みささんが行方不明になってから男が逮捕されるまでの状況や心境を詳細に語り、「究極の悲しさに押しつぶされ、息ができなくなった」と当時を振り返った。

現在は、犯罪被害者の当事者団体「つなぐ会」の一員として、講演会などで自身の体験を話し、被害者の権利確立などを求める活動をしており、「娘にできなかったことや後悔ばかりが浮かぶ。多くの人の力で犯罪被害者を救ってほしい」と訴えた。

写真 = 娘を失った経験を話す加藤さん(奈良市で)

被害者家族の実情訴え 美祢 遺族が経験や思い語る = 山口